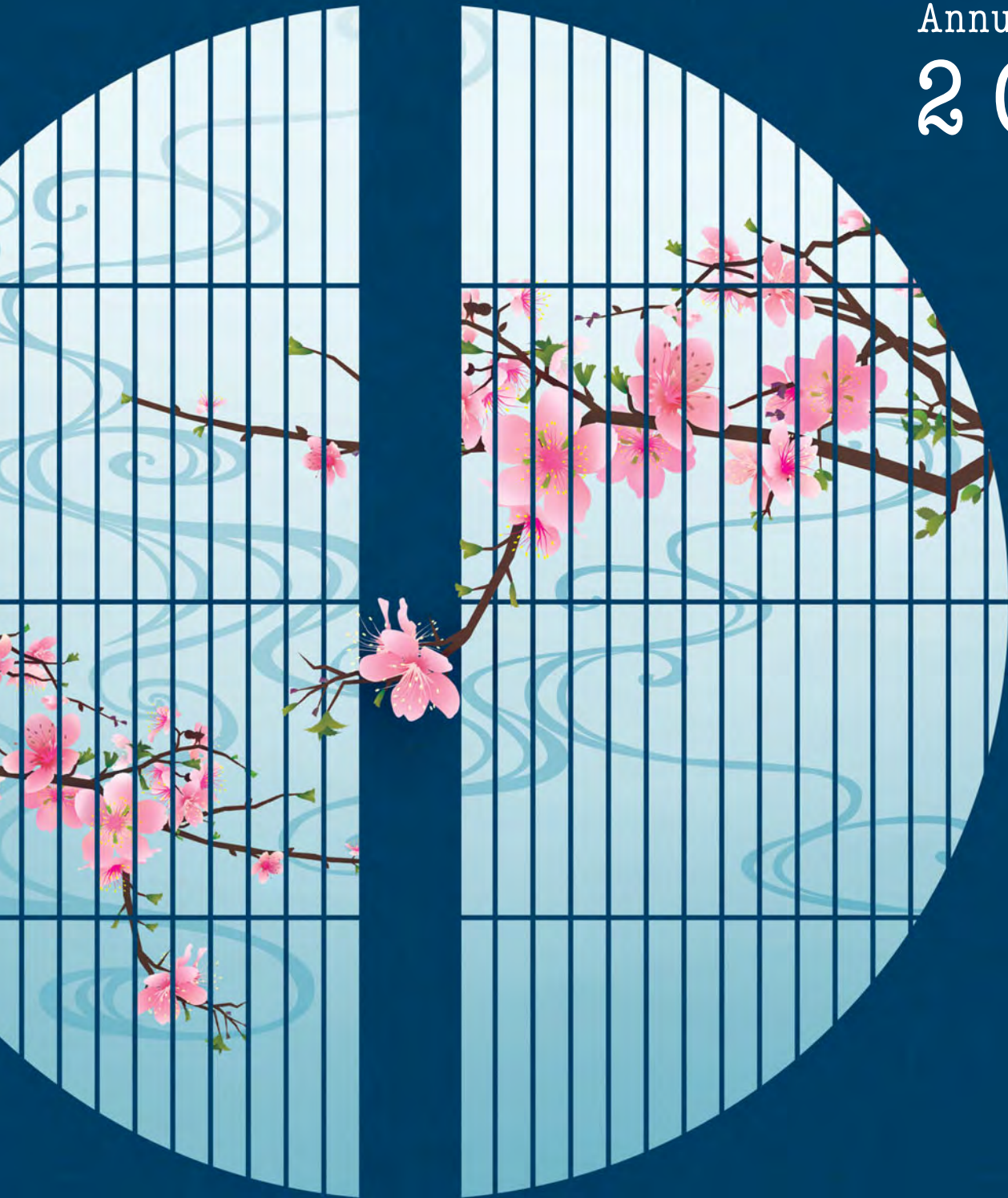


Annual Report

2015



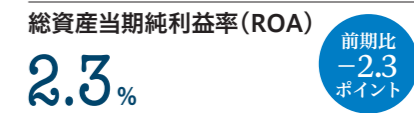
自然との調和を大切に、  
発酵やバイオの技術を通じて  
人間の健康的な暮らしと  
生き生きとした社会づくりに貢献します。

INDEX

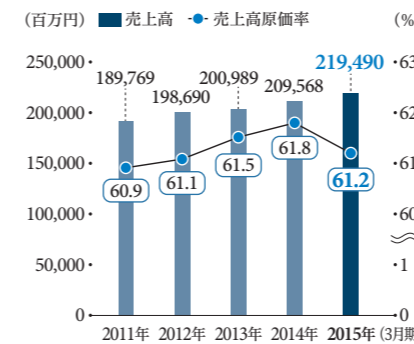
企業理念	1
連結財務ハイライト	2
事業構造	3
株主・投資家の皆様へ	5
特集1/商品開発力・育成力を強みに 清酒事業の拡大を目指す	11
特集2/欧州最大の日本食材卸グループとして 市場拡大に注力	13
特集3/「遺伝子・細胞プロセッシングセンター」 を軸にCDMO事業と研究開発を強化	15
事業概況	17
ESG情報	23
役員	29
10カ年連結財務サマリー	31
主要子会社データ	33
投資家情報	34

将来見通しに関する注意事項

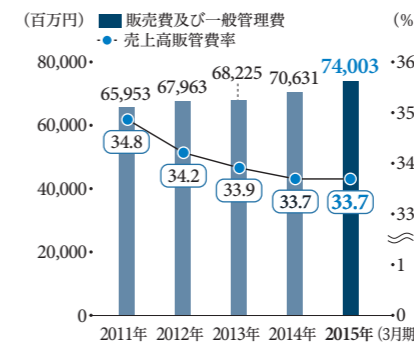
この報告書に記載されている、当社および当社グループの現在の計画、見直し、戦略、確信等のうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものです。実際の業績は、様々な要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。



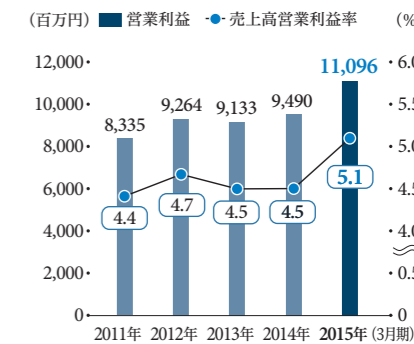
売上高・売上高原価率



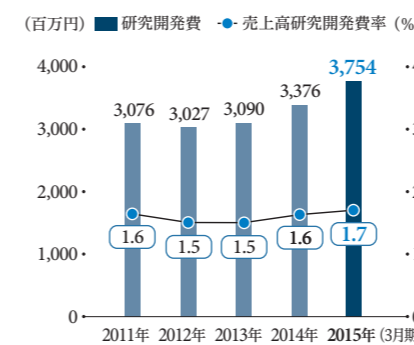
販売費及び一般管理費・売上高販管費率



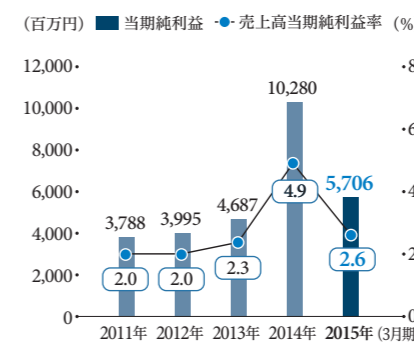
営業利益・売上高営業利益率



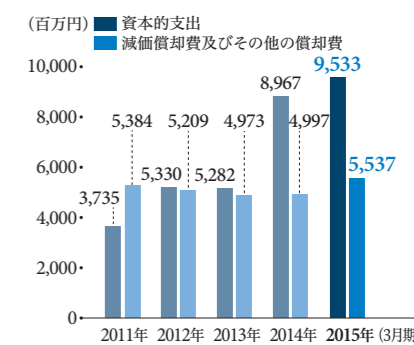
研究開発費・売上高研究開発費率



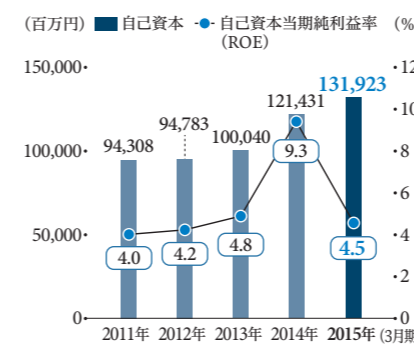
当期純利益・売上高当期純利益率



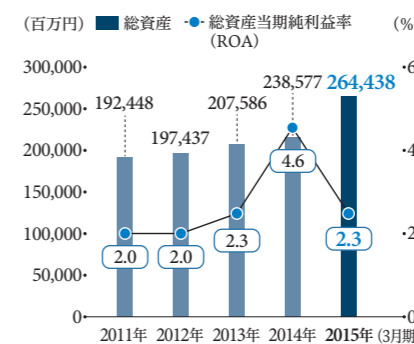
資本的支出・減価償却費及びその他の償却費



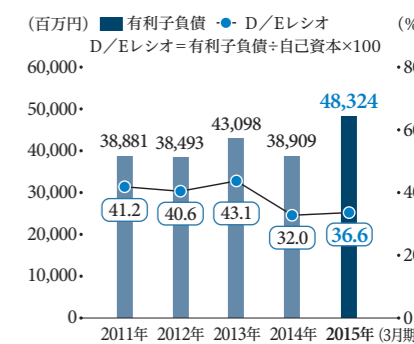
自己資本・自己資本当期純利益率(ROE)



総資産・総資産当期純利益率(ROA)



有利子負債・D/Eレシオ



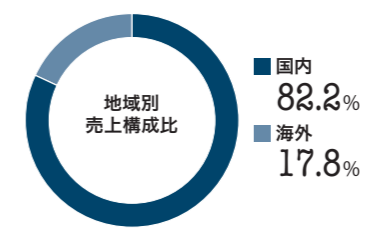
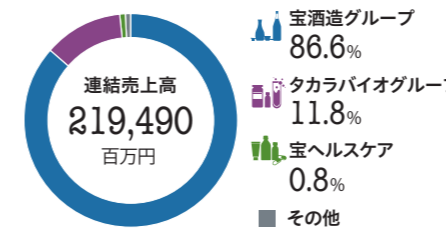
# 安定収益基盤と成長事業で、独自の強固な 事業ポートフォリオを構築

宝ホールディングスは、酒類・調味料事業を展開する宝酒造グループ、バイオ事業を展開するタカラバイオグループ、健康食品事業の成長を加速させる役割を担う宝ヘルスケアを傘下に置く純粋持株会社として、グループ全社の経営を調整・統括し、最大限の事業成果を追求しています。この持株会社体制のもと、TaKaRaグループは、酒類・調味料事業を安定的な収益基盤とし、バイオ事業と健康食品事業という有望な将来性のある成長事業を有する、独自の強固な事業ポートフォリオを築いています。

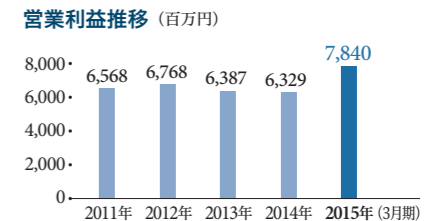
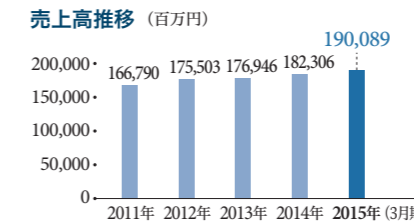
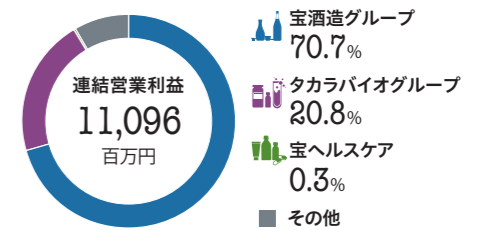
## 宝ホールディングス

純粋持株会社である宝ホールディングスでは、グループ経営基盤の強化、風土・人材育成、社会・環境行動の推進などを通じて、グループ全体の事業成長と企業価値向上を目指しています。

売上構成 (2015年3月期)

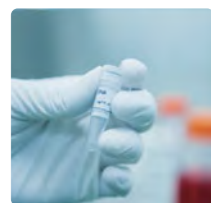
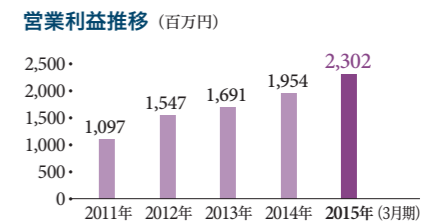
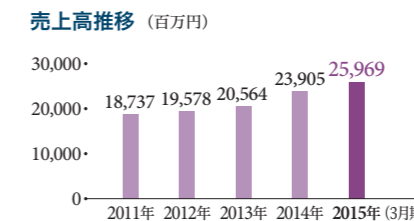
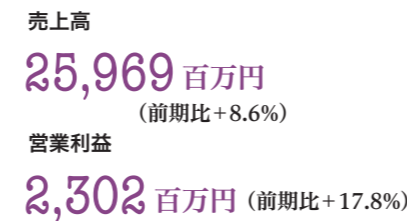


利益構成 (2015年3月期)



### 宝酒造グループ (酒類・調味料事業)

TaKaRaグループの中核である宝酒造グループでは、焼酎、清酒、ソフトアルコール飲料や調味料、原料用アルコールなどを製造し、日本国内のみならずグローバルに販売しています。また、海外では日本食レストラン向けに和食の食材・調味料などを販売する海外日本食材卸事業の基盤構築にも注力しています。



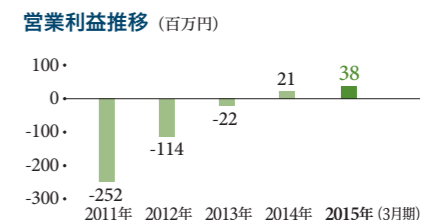
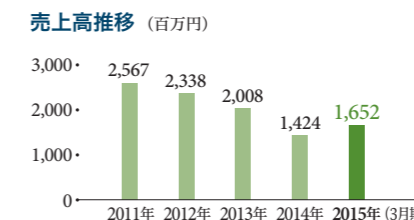
### タカラバイオグループ (バイオ事業)

タカラバイオグループは、バイオ研究者向けの試薬・機器の製造・販売や研究受託サービスの国内外での提供に加えて、健康食品素材の開発やキノコの栽培・販売も手がけています。また、これら事業の収益を投資し、遺伝子治療や細胞医療の核となる技術の商業化を推進しています。



### 宝ヘルスケア (健康食品事業)

宝ヘルスケアは、高齢者の増加や健康志向の高まりを背景に拡大を続ける健康食品市場に向けて、TaKaRaグループの持つ独自素材や技術を活かした安心・安全な健康食品を開発し、通販サイトなどを通じてお客様に直接お届けしています。



その他子会社

## TaKaRaグループのあゆみ

- 1842年 創業(清酒の製造・販売を開始)
- 1864年 焼酎・みりんの製造を開始
- 1925年 寶酒造株式会社を創立
- 1949年 株式を上場
- 1977年 宝焼酎「純」発売
- 1979年 国産初の遺伝子工学研究用試薬「制限酵素」を発売(バイオ事業を開始)
- 1982年 米国で清酒の現地製造を開始
- 1984年 タカラcanチューハイ 発売
- 2002年 持株会社体制へ移行

- 2004年 タカラバイオ株式会社 東証マザーズへ上場
- 2006年 グループ内の事業を再編 宝ヘルスケア株式会社設立
- 2010年 フーデックス社(フランス)の株式を取得(海外日本食材卸事業に参入)
- 2011年 長期経営ビジョン「TaKaRaグループ・ビジョン2020」スタート 「TaKaRaグループ中期経営計画2013」スタート
- 2014年 「TaKaRaグループ中期経営計画2016」スタート

宝酒造グループ タカラバイオグループ 宝ヘルスケア

## 長期経営ビジョン「TaKaRaグループ・ビジョン2020」

国内外の強みを活かせる市場で事業を伸ばし、環境変化に強いバランスのとれた事業構造を確立する

国内外において環境変化に強いバランスのとれた事業ポートフォリオへ

海外への事業拡大

- バイオ事業 (タカラバイオグループ)
- 健康食品事業 (宝ヘルスケア)
- 酒類・調味料事業 (宝酒造グループ)

# 全事業グループで増収・増益。 中計1年目の好スタートを 切ることができました。

## 2015年3月期の連結業績

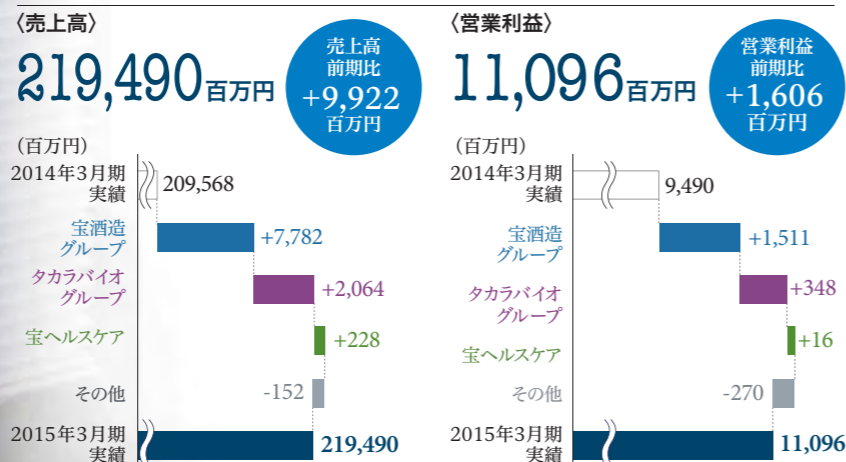
4期連続で過去最高売上高を更新しました。

当期(2015年3月期)の日本経済は、政府による経済対策や日本銀行の金融政策の効果を背景に円安や株高が進み、輸出関連企業を中心として収益に改善がみられました。しかし、消費税増税の影響を受けた個人消費にその効果を及ぼすまでにはいたっておらず、また海外では、米国の景気回復基調が続く一方で、新興国経済の成長は鈍化しており、世界景気は先行きが不透明な状態です。

このような環境の中、当社グループは長期経営ビジョン「TaKaRaグループ・ビジョン2020」の実現に向けて、その第2ステップとなる「TaKaRaグループ中期経営計画2016」を当期よりスタートさせ、「環境変化に強いバランスのとれた事業構造への変革」を目指し、宝酒造グループの国内事業での収益力向上、海外事業の拡大・伸長、バイオ事業の成長加速に取り組んでいます。

当期の連結業績については、連結売上高は前期比4.7%増収の2,194億90百万円と、4期連続で過去最高を更新しました。利益面についても、営業利益は前期比16.9%増益の110億96百万円、経常利益は前期比19.4%増益の118億27百万円と、いずれも増益となりました。当期純利益については、前期(2014年3月期)に計上したタカラバイオ株式の一部売却による特別利益の反動により、前期比44.5%減益の57億6百万円となりました。中計1年目として順調なスタートを切ることができたと評価しています。

### 2015年3月期連結業績の増減要因



宝ホールディングス株式会社  
代表取締役社長  
**柿本 敏男**

## 宝酒造グループ

酒類事業では、焼酎やソフトアルコール飲料は売上が減少しましたが、清酒は増産体制を整えた“松竹梅白壁蔵「霽」スパークリング清酒”が大きく売上を伸ばしたことで増収となり、酒類全体ではほぼ前期並の売上となりました。調味料は、本みりんが消費税増税前の駆け込み需要の反動により減少した一方で、料理用清酒、食品調味料が引き続き好調に推移し、これも前期並の売上となりました。海外日本食材卸は、前期にパートナーとしてグループに迎入れたイギリスのタザキフーズ社とスペインのコミンポート社の売上が上乗せとなったことに加え、フランスのフーデックス社も好調な売上となったことから、大幅な増収となりました。

以上の結果、宝酒造グループ全体の売上高は、前期比4.3%増収の1,900億89百万円、営業利益は前期比23.9%増益の78億40百万円となりました。

## タカラバイオグループ

タカラバイオグループのコアビジネスであるバイオ産業支援事業は、主力製品の研究用試薬が、円安の影響もあり、海外を中心に好調に売上を伸ばしたほか、理化学機器、研究受託サービスも売上を伸ばし、増収となりました。また、医食品バイオ事業も、キノコ関連製品の売上が減少したものの、健康食品の売上増により増収となりました。遺伝子医療事業では、腫瘍溶解性ウイルスHF10をはじめとする各種臨床開発プロジェクトを商業化に向けて順調に進展させました。

以上の結果、タカラバイオグループ全体の売上高は、前期比8.6%増収の259億69百万円、営業利益は前期比17.8%増益の23億2百万円となり、4期連続の増収、6期連続の増益となりました。

## 宝ヘルスケア

健康食品では、ガゴメ昆布「フコイダン」シリーズやボタンポウフウ「イソサミジン」シリーズなどが引き続き好調に売上を伸ばしたほか、化粧品のOEM受託製品も大幅増収となりました。

この結果、宝ヘルスケアの売上高は、前期比16.0%増収の16億52百万円となり、営業利益は、前期比77.9%増益の38百万円となりました。

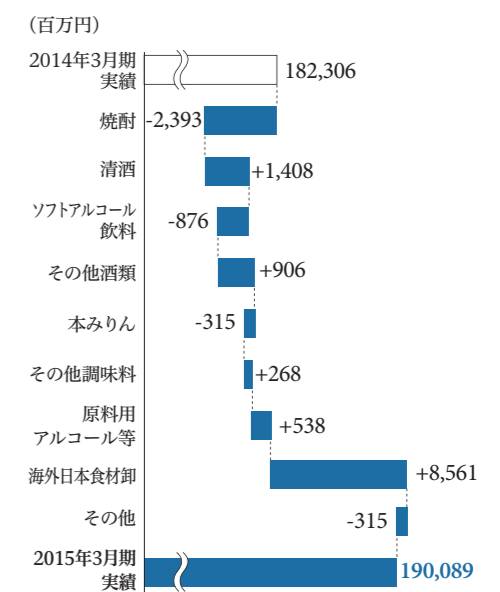
## 株主還元について

好業績を踏まえ、普通配当を前期から1円増配しました。

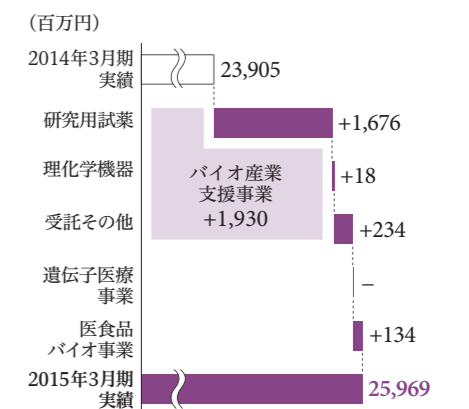
当社では、中長期的な視野のもと、TaKaRaグループ全体の事業基盤の強化と利益成長の実現による企業価値および株主利益の最大化を目指し、利益配分を行っています。株主の皆様への利益還元については、連結営業利益の水準に応じて増配する方針とし、配当総額の税引後営業利益に対する比率を「みなし配当性向<sup>※1</sup>」として、30%を目安に配当を行うこととしています。資本効率の向上に資する自己株式取得についても、状況に応じて機動的な実施を検討していきます。

当期配当については、普通配当を前期から1円増配<sup>※2</sup>し、1株につき10円としました。

### 2015年3月期の売上高増減要因 (宝酒造グループ)



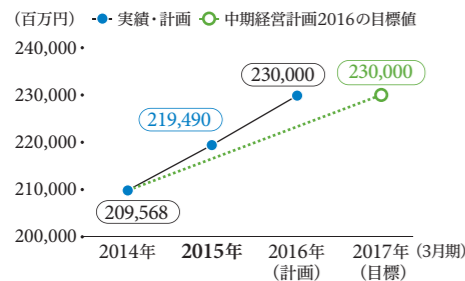
### 2015年3月期の売上高増減要因 (タカラバイオグループ)



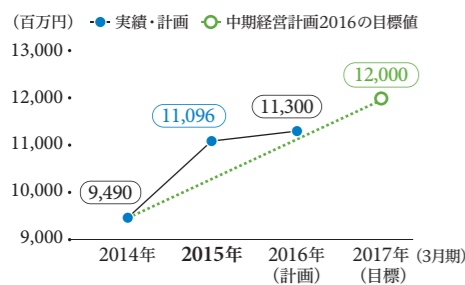
※1 みなし配当性向：  
配当総額 / (連結営業利益 × (1 - 法定実効税率))

※2 前期配当では、普通配当9円に加え、タカラバイオ株式の一部売却に伴う特別利益の一部を株主の皆様へ還元するため、特別配当2円を実施しています。

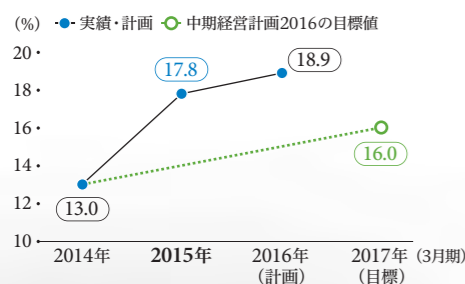
中期経営計画2016 定量目標との比較  
(連結売上高)



〈連結営業利益〉



〈海外売上高比率〉



なお、次期(2016年3月期)についても1円増配し、1株につき11円の普通配当を予定しています。

「TaKaRaグループ中期経営計画2016」の進捗状況

目標達成に向け各部門の戦略を着実に進めました。

「TaKaRaグループ中期経営計画2016」の3年間は、長期経営ビジョン「TaKaRaグループ・ビジョン2020」で目指す「環境変化に強いバランスのとれた事業構造を確立する」うえで、非常に重要な位置付けにあると考えています。

同中計では、定量目標として2017年3月期に「連結売上高2,300億円以上」「連結営業利益120億円以上」「海外売上高比率16%以上」を掲げていますが、前述のように当期は諸施策の推進により、連結売上高2,194億円、連結営業利益110億円、海外売上高比率17.8%と、着実に計画を進めることができました。海外売上高比率については、国内酒類事業の計画未達や円安の進行も影響していますが、目標とする「環境変化に強い事業構造」への変革という意味では一定の成果を得られたと考えています。

また、利益成長のための4つの重点戦略として、宝酒造グループにおける「『濁』を中心とした清酒売上高の拡大」「欧米をはじめとする世界での日本食材卸網構築」、タカラバイオグループにおける「バイオ医薬品などの製造開発支援サービス(CDMO事業)拡大」「遺伝子治療・細胞医療における臨床開発の推進」に注力し、いずれも大きく進捗しました。「濁」については、増産体制を整えたことで大幅に売上を伸ばすだけでなく、「スパークリング清酒」という新たな市場の拡大を牽引できたことを大きく評価しています。「濁」が人気を博したことで同市場への新規参入が相次ぎ、市場全体が拡大しています。この伸び行く新市場において、「濁」を着実に育成し、清酒全体の拡大につなげます。

海外日本食材卸事業についても、欧州における販売網の強化を着実に推し進めました。食材卸3社の売上増に加え、タザキフーズの取り扱うPB商品“Yutaka”をフードックスでも展開するなど、卸会社間のシナジーにも手応えを感じています。今後、北米については持分法適用会社のミューチャルトレーディング社とのパートナーシップを強化し、アジア・オセアニア地域についてもパートナーを迎え入れていくことで、日本食市場が世界的に拡大しているこのチャンスに事業展開を加速します。

タカラバイオグループでは、CDMO事業の中核拠点となる「遺伝子・細胞プロセッシングセンター」を2014年10月に稼働させました。早くからこの分野に着目してきたことも奏功し、売上は順調に伸びています。遺伝子治療・細胞医療の臨床開発についても、商業化に向けた治験の症例数を着実に伸ばしています。

2016年3月期の注力分野と業績見通し

グループ全体で引き続き増収・増益を目指します。

宝酒造グループ

国内の人口減少や高齢化の進行により、酒類市場そのものが縮小していく中、

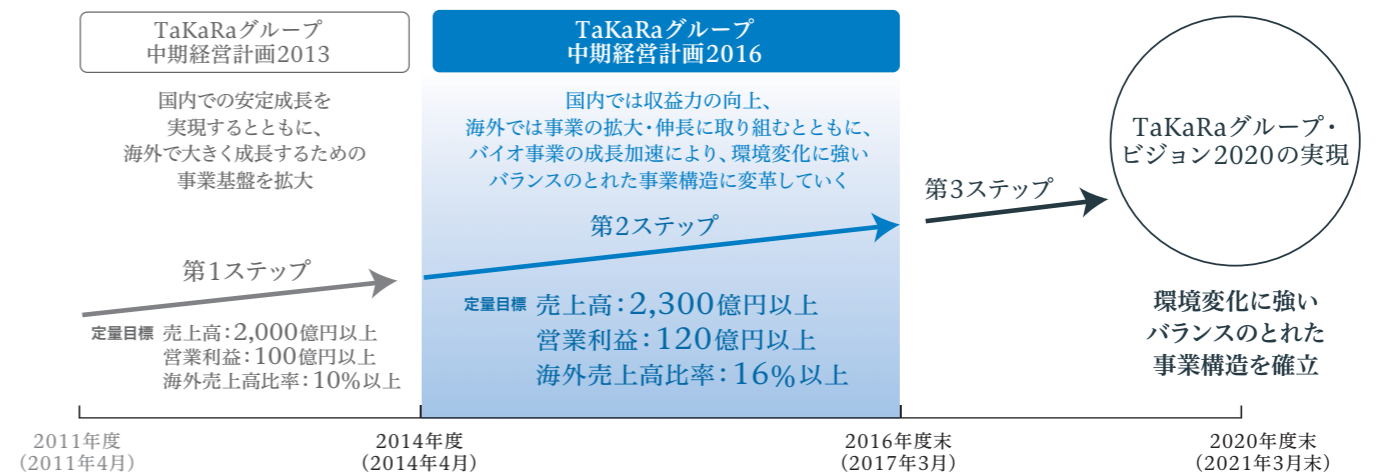
宝酒造グループでは国内酒類事業の収益力向上が最大の課題となっています。次期の重点施策の一つは“松竹梅白壁蔵「濁」スパークリング清酒”の育成加速です。当期は供給が追いつかずプロモーションを控えていた時期もありましたが、増産体制を確立したことで、次期からは広告・プロモーションも積極的に展開します。ふだんあまりお酒を飲まないライトユーザーの方々でも、「濁」を実際に手に取って飲んでいただければ、きっとファンになってもらえると期待しています。

国内酒類事業のもう一つの重点施策は、ソフトアルコール飲料新商品への注力です。ソフトアルコール飲料のカテゴリーでは、辛口な味わいの“タカラ「焼酎ハイボール」”が年々売上を拡大していますが、ボリュームゾーンである果汁系チューハイ市場に、消費者

「TaKaRaグループ中期経営計画2016」の概要

基本方針	「TaKaRaグループ・ビジョン2020」の実現に向けて、国内では収益力の向上、海外では事業の拡大・伸長に取り組むとともに、バイオ事業の成長加速により、環境変化に強いバランスのとれた事業構造に変革していく		
定量目標	2017年3月期 TaKaRaグループ連結 売上高 <b>2,300</b> 億円以上 営業利益 <b>120</b> 億円以上 海外売上高比率 <b>16</b> %以上		
事業戦略	宝酒造グループ	技術で差別化された商品の開発・育成により、国内事業の収益力を向上させるとともに、日本食材卸網を積極的に拡大し、海外事業を大きく伸長させる	
	タカラバイオグループ	再生・細胞医療分野へ戦略的な投資を行い、バイオ事業の成長を加速させる	
	宝ヘルスケア	ダイレクトマーケティングを通じて、健康食品事業の成長を加速させる	
重点戦略	重点戦略① 宝酒造グループ 「濁」を中心とした清酒売上高の拡大	重点戦略② 宝酒造グループ 欧米をはじめとする世界での日本食材卸網構築	重点戦略④ タカラバイオグループ 遺伝子治療・細胞医療における臨床開発の推進
	重点戦略③ タカラバイオグループ バイオ医薬品などの製造開発支援サービス(CDMO事業)拡大		
財務方針	健全な財務体質を維持しながら、資本効率を意識し、利益成長のための重点戦略への積極的な投資と、適切な株主還元を実施する		

「TaKaRaグループ中期経営計画2016」の位置付け





“TaKaRa果汁入り糖質ゼロチューハイ「ゼロ仕立て」”

の皆様へ支持される商品を投入できていないことが課題でした。そして2015年6月に待望の新商品として“TaKaRa果汁入り糖質ゼロチューハイ「ゼロ仕立て」”を発売しました。この「ゼロ仕立て」は、果汁を使用しながらも、当社の独自技術によって糖質をゼロにし、かつ甘味料、香料、着色料といった添加物を一切使用せず、またプリン体もゼロに抑えています。果汁のおいしさを活かしながらも5つのゼロを実現した業界初のこの商品を核に、ソフトアルコール飲料の売上拡大を図ります。

一方、海外事業については、海外酒類事業、海外日本食材卸事業の両事業の拡大を引き続き推進します。特に海外日本食材卸事業では、ヨーロッパでの事業拡大が急務だと考えています。ヨーロッパでは日本料理店の出店が増えており、その数はここ5年ほどで2倍以上に膨らみました。2015年イタリアで開催されたミラノ国際博覧会では、当社の「澤」も提供されましたが、日本館は非常に盛況だったと聞いています。「和食」への注目が高まっているこの機会を逃すことなく、事業の拡大・強化を図っていきます。

こうした取り組みにより、次期の宝酒造グループの売上高は当期比3.9%増収の1,975億円、営業利益は当期比8.4%増益の85億円を計画しています。

### タカラバイオグループ

タカラバイオグループでは、政府による再生医療分野の規制改革を追い風に、事業の拡大を図ります。

バイオ産業支援事業では「遺伝子・細胞プロセッシングセンター」を中核拠点に、これまで医療機関でしか行えなかった細胞の培養・加工の受託のほか、バイオ医薬品や再生医療等製品などの開発支援・製造受託といったCDMO事業の拡大に取り組みます。

遺伝子医療事業においても、現在臨床試験を進めている腫瘍溶解性ウイルスHF10およびsiTCR遺伝子治療の新制度を活用した早期の商業化を目指して開発を進めます。

一方、医食品バイオ事業では、キノコ事業の収益改善と、宝ヘルスケアとの連携による健康食品の売上拡大により、営業黒字化を目指します。

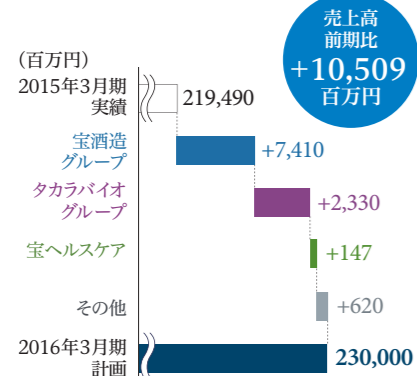
これらの取り組みにより、次期のタカラバイオグループの売上高は、当期比9.0%増収の283億円、営業利益については当期比2.1%増益の23億50百万円を計画しています。

### 宝ヘルスケア

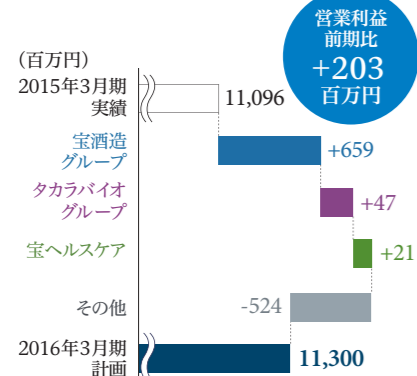
2015年4月よりスタートした「機能性表示食品制度」により健康食品市場の活性化が期待される中、宝ヘルスケアでは、引き続きガゴメ昆布「フコイダン」シリーズに注力します。研究開始から30年にあたる次期は、その研究実績を強く訴求していきます。あわせてボタンボウフウ「イソサミジン」シリーズの育成にも取り組み、次期の売上高は、当期比8.9%増収の18億円、営業利益は当期比56.9%増益の60百万円を見込んでいます。

以上の取り組みによって、当社グループの次期の連結売上高は、当期比4.8%増収の2,300億円、営業利益は同1.8%増益の113億円、親会社株主に帰属する当期純利益は同12.2%増益の64億円を計画しています。「TaKaRaグループ中期経営計画2016」の2年目として、着実に計画を進めていきたいと考えています。

2016年3月期連結業績(計画)の増減(売上高)



(営業利益)



### 株主・投資家の皆様へのメッセージ

すべての部門・すべての従業員でさらなる「変革」を進めていきます。

長期経営ビジョン「TaKaRaグループ・ビジョン2020」の実現のためには、「中期経営計画2016」の達成が不可欠です。目標達成に向け、グループ各社が事業戦略を着実に進めると同時に、持株会社である宝ホールディングスでは、企業にとって最大の経営資源である「人財」の活用と育成のほか、様々な側面でグループ経営基盤の強化を進めていきます。

海外事業の拡大により、グローバル規模でのコンプライアンスはますます重要になってきており、法令や社内ルールの遵守にグループ従業員全員で取り組む必要があります。グループ全体のリスクマネジメントやフードディフェンスなどの安全・品質管理の強化に加え、今年から運用開始された「日本版コーポレートガバナンス・コード」への対応も進めます。さらに、様々なステークホルダーへの責任を果たしていくために、社会貢献・環境保全などのCSR活動にも継続して取り組みます。

また、財務面においては、健全な財務体質を維持しながらも、資本効率を意識して、利益率が高く成長が見込まれる分野への投資を積極的に行うとともに、適切な株主還元を実施することで、ROEを高めていきます。

日本社会の高齢化と人口減少が進み、国内市場の縮小がさらに加速していくことが見込まれる中、環境変化に対応した、バランスのとれた強固な事業構造を確立していかなければ、持続的な発展は実現できません。そのために私は「自分たちが今までやってきたすべてのことを、今、変えねばならない」と、社内に言い続けています。「変革」なくして持続的な発展はありません。

「変革のために『意識』を変える」と言われるのを耳にすることがありますが、私は「意識」よりもまず「行動」を変えることが重要だと思っています。変革への道筋、やり方を行動レベルで示すことで、すべての従業員が同じ方向に向かって行動することができます。そのために、「中期経営計画2016」では部門ごとに詳細な戦略を策定し、推進しています。行動が変われば意識も変わってきます。そして意識が変われば、もっと大きな変革を成し遂げられるはずで。

こうした取り組みを、グループのすべての部門で、すべての従業員が実践し、一つひとつ地道に成果を積み上げていくことで、当社グループはこれからも持続的な発展と企業価値の向上を目指してまいります。株主・投資家の皆様には、引き続き当社グループへの温かいご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

2015年8月  
宝ホールディングス株式会社  
代表取締役社長

柿本敏男



# 商品開発力・育成力を強みに 清酒事業の拡大を目指す

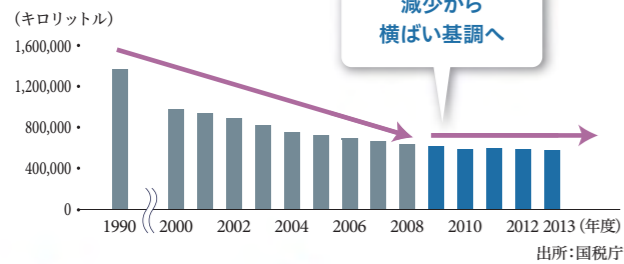
## 「よろこびの清酒」松竹梅で 清酒ファンの高い支持を獲得

1842年に京都・伏見で清酒製造を開始して以来、当社は170年以上の長きにわたり、高品質でおいしい清酒を社会に提供してきました。当社の清酒ブランド「松竹梅」は、「よろこびの清酒」として、慶祝・贈答市場で多くのお客様のご愛顧をいただき、晩酌市場においても「松竹梅天」などで高い支持を獲得しています。

2001年には、神戸市東灘区に「松竹梅白壁蔵」を設立。伝統的な手造りの原理を再現した最新鋭の設備と、人の手による造りを両立させ、現在、全国新酒鑑評会で12年連続金賞を受賞。「松竹梅白壁蔵」<生酛純米>などの高品質酒を市場に送り出しています。

国内の清酒消費数量は長年減少を続けていましたが、近年ようやくその流れに歯止めがかかり、「スパークリング清酒」

### 国内の清酒消費数量の推移

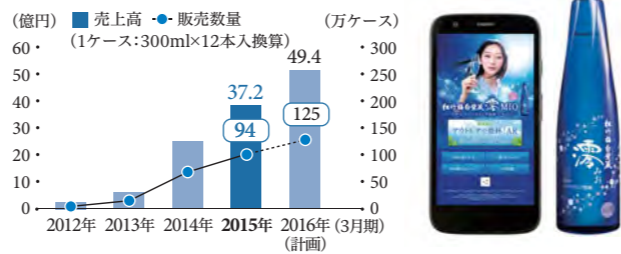


や「糖質オフ」といった新しいタイプの商品の登場や、海外での清酒人気の高まりなど、市場環境が徐々に変わりつつあります。こうした市場変化に対応し、当社では新しい切り口の商品づくりや新たなユーザー開拓など、様々な角度から清酒事業の拡大に取り組んでいます。

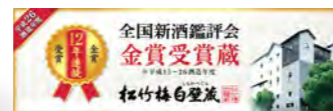
## 伝統と革新の技術力が生んだ「澤」が 新たなカテゴリーを牽引

2011年に発売した「松竹梅白壁蔵澤」スパークリング清酒も、白壁蔵の高い技術力が生んだ商品。お米生まれのほのかな甘みとほどよい酸味が楽しめる、爽やかな泡が心地よいアルコール分5%のスパークリング清酒です。清酒に馴染みのなかったライトユーザーにも受け入れられ、生産設備を増強した当期は、前期の1.5倍の94万ケースを出荷。「スパークリング清酒」という新しいカテゴリーの市場拡大を牽引しています。

### 「澤」売上高・販売数量推移



### 白壁蔵



白壁蔵で製造した清酒「松竹梅」は、「全国新酒鑑評会」で12年連続で金賞を受賞しています。

## 拡大する市場に対応し 「糖質オフ」の新商品を提供

高まる健康志向を背景に、「糖質オフ」タイプの商品の人気はますます高まっており、清酒カテゴリーでも高い潜在ニーズがあると考えられます。この有望市場に向けて当社が2014年に発売した商品が、「松竹梅天」<糖質70%オフ>です。

「松竹梅天」<糖質70%オフ>は、糖質を大幅にカットしながらも、「松竹梅天」の特長であるすっきり辛口な味わいを実現。糖質が気になるお客様の毎日の晩酌にぴったりの清酒として、発売以来着実に売上を伸ばしています。



松竹梅「天」<糖質70%オフ>

## 海外での清酒トップブランド “Sho Chiku Bai”のさらなる拡大

当社は海外においても、清酒「松竹梅」をはじめとする自社ブランド商品を世界各地に展開してきました。1982年に

### 清酒の海外生産拠点

#### 宝酒造食品



China

#### 米国宝酒造



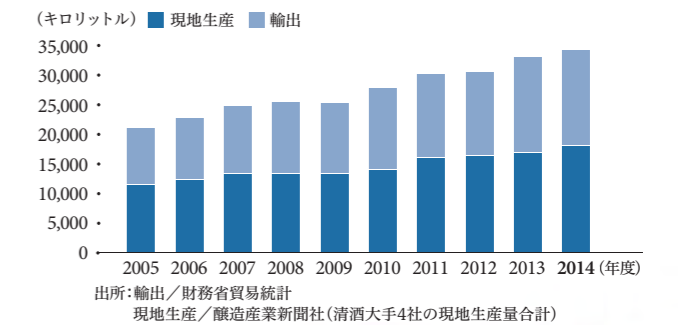
U.S.A.



米国で清酒の現地生産を開始し、米国全土と欧州などに商品を提供しているほか、中国でも1995年から現地生産を開始。米国・中国はもちろん、欧州の多くの地域でも「松竹梅」は清酒カテゴリーでのトップブランドとなっています。

世界的な「和食」人気の高まりを背景に、清酒の輸出量・海外生産数量は年々増加しており、この追い風の中、当社は今後も「松竹梅」ブランドのさらなる強化・拡大を通じて日本の食文化を世界に発信していきます。そして、伝統と革新を兼ね備えた技術力、独自の商品開発力・育成力を強みに、国内外の市場で清酒をはじめとする「和酒」のトップブランドを目指していきます。

### 海外の清酒市場規模の推移



# 欧州最大の日本食材卸グループとして市場拡大に注力

## 全世界で注目される「日本の食」

「和食」は、今や世界的にポピュラーな存在。米国や欧州ではすでに「Sushi」が一般スーパーに並ぶほど日常生活に浸透し、世界各地で“おいしさ”と“ヘルシーさ”を兼ね備えた日本食が身近な存在になりつつあります。

海外の日本食レストランの数はここ5年で約2倍に急増。寿司やてんぷら主体の店だけでなく焼き鳥・ラーメン・うどんなどの専門店も増えています。2013年に「和食」がユネスコ



フランスの一般スーパーで販売される寿司

無形文化遺産に登録されたことで、今後も海外での日本食普及が進み、関連市場のさらなる拡大が期待されます。

## 欧州各国で日本食材卸事業を拡大

世界的な日本食ブームの中、当社は海外日本食材卸事業の展開を進めてきました。この事業は、海外現地において、米や寿司ネタ、海苔といった日本の食材や調味料を日本国内や世界各地から調達し、日本食レストランなどの顧客に供給するビジネスです。2011年3月期、フランスの日本食材卸最大手フーデックス社の株式取得により同事業に参入した当社は、2014年3月期にイギリスのタザキフーズ社、スペインのコミンポート社をグループに迎え入れ、現在では欧州最大の日本食材卸グループを形成しています。また北米でも、2013年3月期にミューチャルトレーディング社の第三者割当増資を引き受けパートナーシップを強化しました。

各卸会社は様々な商品やサービスの情報をいち早く顧客に届けるとともに、ユーザーのニーズを収集・分析してサプライヤーに伝えるなど、情報の「つなぎ役」としても機能を発揮。各国の市場特性に応じた品揃えと提案で着実に業績を伸ばしています。

## グループシナジーを追求し、存在感を高める

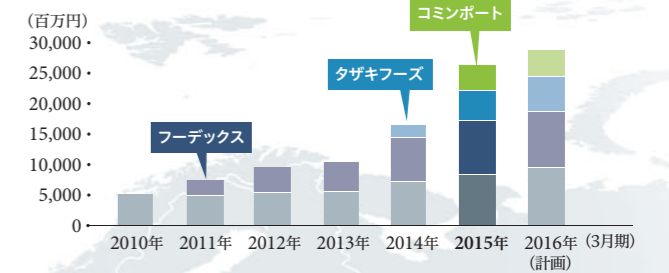
欧州は、近年パリやロンドンなど都市部を中心に日本食市場が拡大していますが、海外最大市場の北米に比べると市場規模はまだ数分の1。逆に言えば非常に大きなポテンシャルがあります。

ニーズの多様化・高度化が予想される今後は、料飲店を主なターゲットとしながらも、テイクアウトや総菜などの中食市場や、スーパー・食品店といった小売市場向けの展開も強化。個々の卸会社が販売エリアの拡大や配送機能の強化、品揃えの拡充などに取り組む一方で、各社の事業ノウハウや顧客情報の共有化を進め、将来的には共通購買によるエリアを超えた最適な調達・供給体制、情報共有による効果的な販売促

進、商品の共同開発などグループとしてのシナジーも追求し、確固たるポジションを築いていきます。

また欧米はもとより、その他の地域でも新たなパートナー企業との連携の可能性を探り、「和食あるところにTaKaRaあり」と言われるよう、全世界で当社の存在感を高めていきたいと考えています。

## 宝酒造グループ海外売上高推移

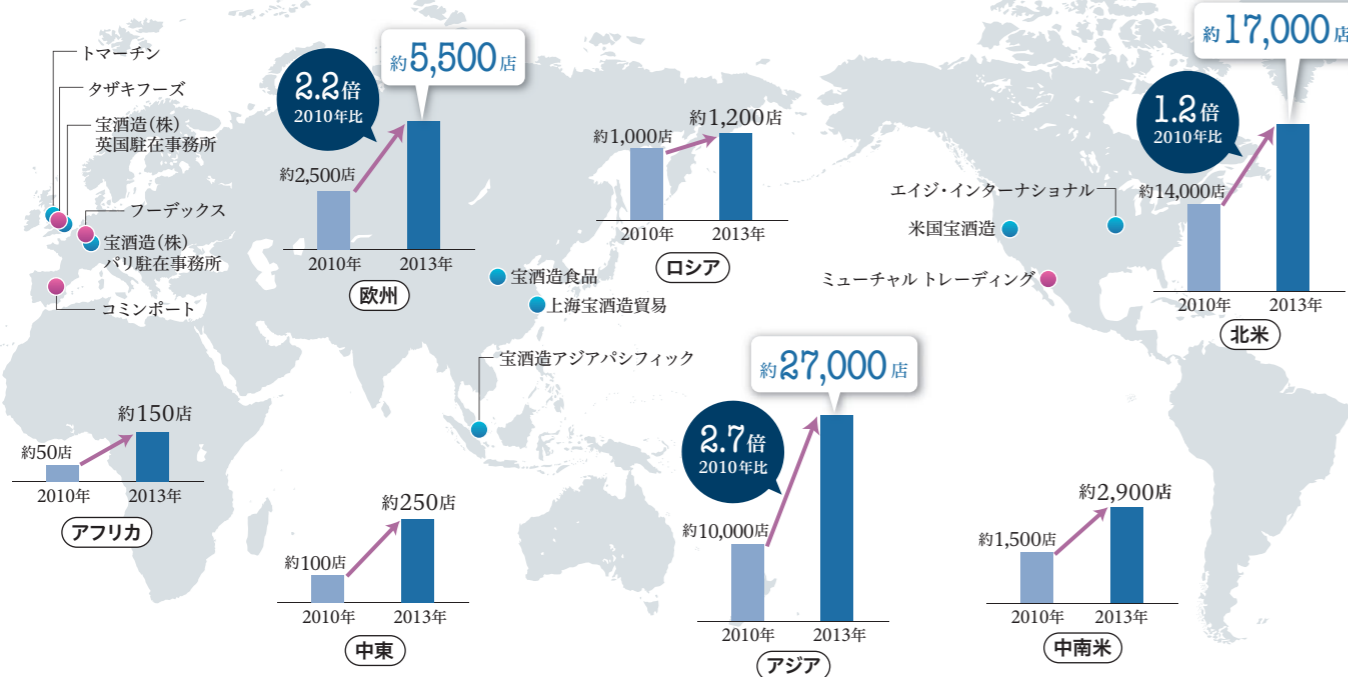


## 欧州における海外日本食卸事業ネットワーク



## 宝酒造グループの海外拠点と世界の日本食レストラン店舗数

出所：農林水産省  
● 海外酒類事業 ● 海外日本食材卸事業



**コミンポート(スペイン)**  
Cominport Distribución S.L.  
2014年3月期グループ化



# 「遺伝子・細胞プロセッシングセンター」を軸にCDMO事業と研究開発を強化

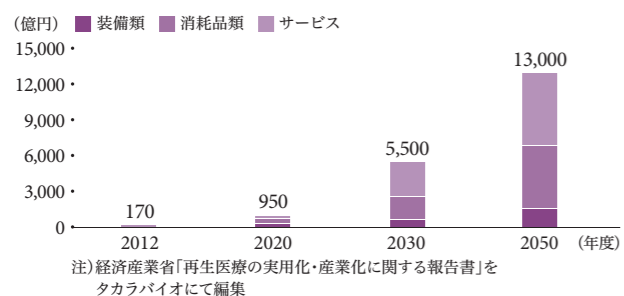
## 政府支援のもと活性化する再生医療・細胞医療市場

近年、再生医療・細胞医療分野の研究開発は急速に進歩を続けており、がんや心疾患、脳疾患などの新治療法としてその実用化が期待されています。日本政府も再生医療関連の法整備を進めるなど実用化・産業化を積極的に支援しています。

2014年11月には「再生医療等の安全性の確保等に関する法律」が施行され、従来は医療機関しか行えなかった細胞の培養・加工の外部委託が可能になりました。国内の再生医療市場は2050年には2.5兆円規模に、消耗品・装置・受託サービスなどの周辺市場も1.3兆円規模にまで拡大すると予測されています。

この新たな市場ニーズに対応すべく、タカラバイオでは細胞加工を含めたバイオ医薬品や再生医療等製品などの製造開発支援サービス(CDMO)事業への展開を加速。遺伝子治療や細胞医療の臨床開発で培った技術・ノウハウを活用して事業拡大を図っています。

### 再生医療等製品周辺産業の国内市場規模予測



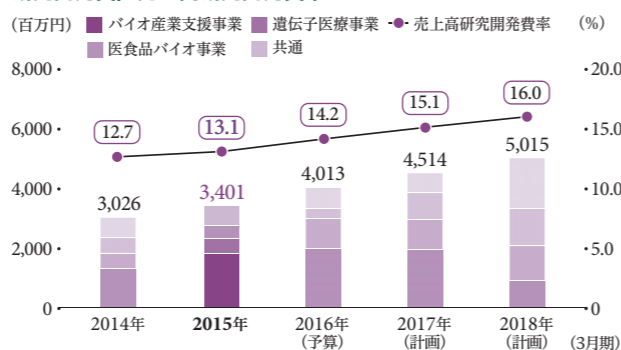
## 再生医療・細胞医療分野の多様なニーズに応え事業の拡大を目指す

タカラバイオは2014年、GCTP/GMP製造施設「遺伝子・細胞プロセッシングセンター」を滋賀県草津市に新設しました。

2014年10月から稼働を開始した同センターで、自社臨床開発プロジェクトのための治験薬製造に加え、受託サービスも積極的に実施。細胞の培養・加工や遺伝子を細胞に運ぶベクターの製造、安全性試験や品質試験など、製薬企業や医療機関、研究機関の重要パートナーとして受託サービスを拡大しています。

2015年8月からは随時、同センターに隣接した新施設に遺伝子解析拠点を移設する予定です。今後も、再生医療・細胞医療での「ワンストップサービス」を提供し、リーディング企業を目指していきます。

### 研究開発費/売上高研究開発費率



### 臨床試験(治験)開発スケジュール

対象疾患	Phase	※再生医療等製品としての治験	日本における検討適用制度	商業化	
Oncolytic Virus	HF10	メラノーマなど	Phase I (国内)※ 2016年3月期終了予定	・オーファンドラッグ制度 ・先駆け審査指定制度 ・条件及び期限付承認制度	2019年3月期
		メラノーマ	Phase II (米国) 2017年3月期終了予定	—	
Engineered T cell Therapy	siTCR	MAGE-A4-siTCR遺伝子治療	Phase I (国内)※(医師主導治験) 2016年3月期終了予定	・条件及び期限付承認制度	2022年3月期
		NY-ESO-1-siTCR遺伝子治療	Phase I (国内)※(医師主導治験) 2017年3月期終了予定	・オーファンドラッグ制度 ・条件及び期限付承認制度	
	CAR	CD19-CAR遺伝子治療	治験開始準備中(国内) 2016年3月期開始予定	・オーファンドラッグ制度 ・条件及び期限付承認制度	
MazF遺伝子治療	Phase I (米国) 2016年3月期終了予定	—	—	2023年3月期	

## 2F

### ウイルスベクター製造

遺伝子治療・細胞医療の臨床研究用の各種ウイルスベクターなどの構築から大量製造までを行います。複数の製造室を設置し、同時に多品種製造が可能です。



### 無菌充填

ハイグレードな清浄度(1立方フィート中に粒子が100個以下)において各種ベクター・タンパク質の無菌充填を行います。一日当たり約3,000本の無菌充填が可能です。



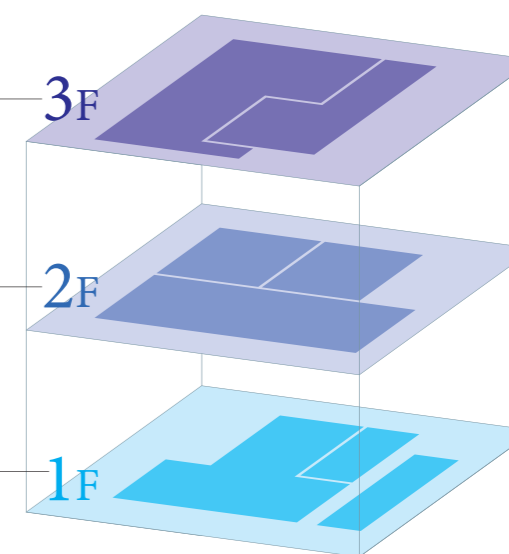
## 3F

### 細胞加工・品質試験

遺伝子治療・細胞医療に用いる細胞製品を複数の独立した細胞調製室で製造します。また、ウイルス否定試験やエンドトキシン試験など細胞製品の安全性・品質試験を行います。



### 遺伝子・細胞プロセッシングセンター



## 1F

### セルバンク保管

研究用・臨床用の各種凍結細胞を超低温フリーザーや液体窒素タンクにて保管し、24時間温度モニタリングにより管理します。

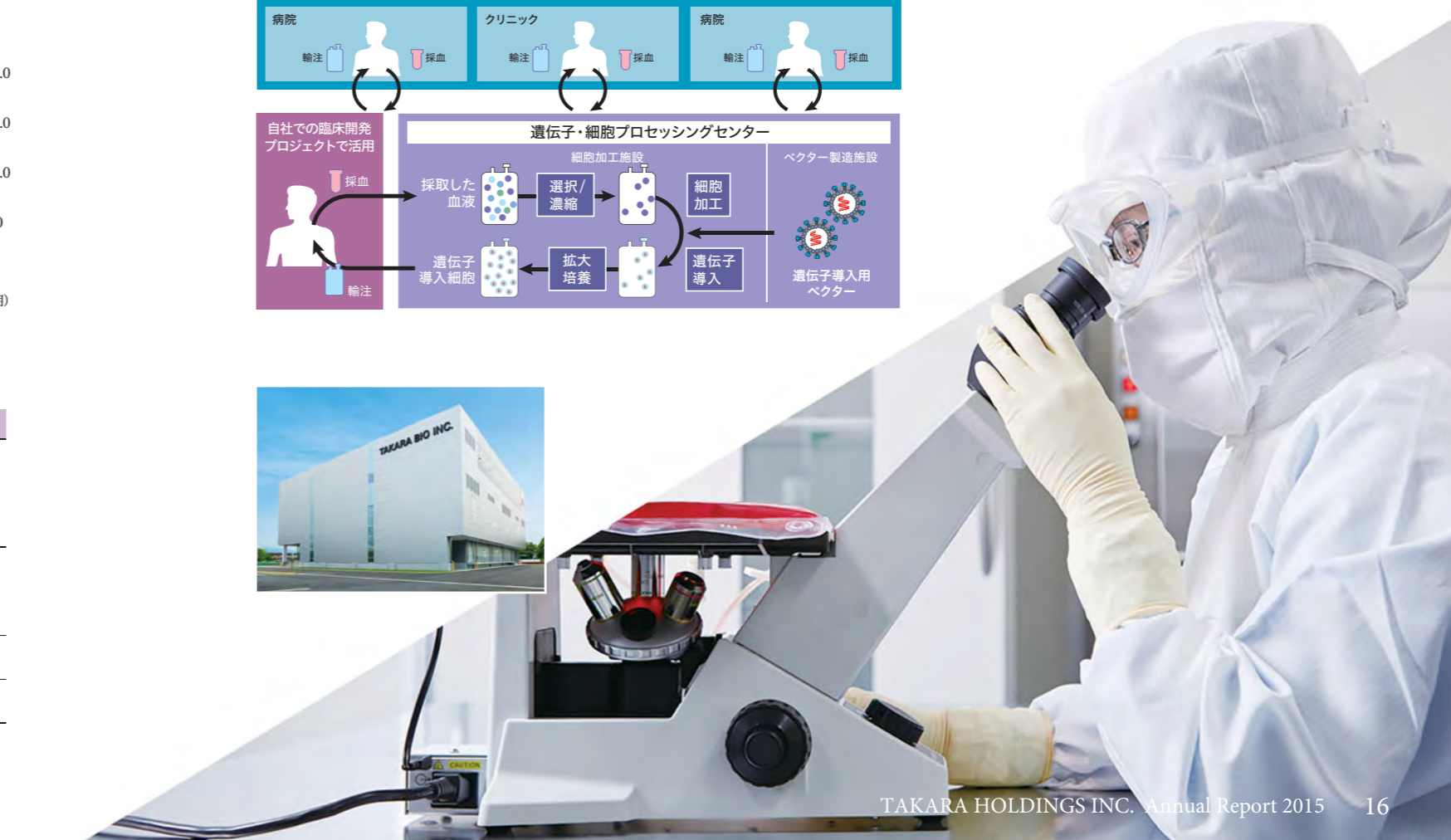
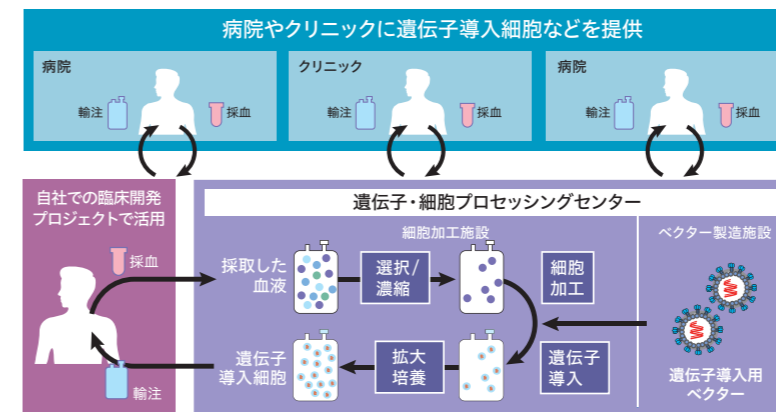


### プラスミドベクター・タンパク質製造

大腸菌などの微生物を用いて、GMPグレードのレトロネクテン®やiPS細胞作製用プラスミドベクターなどを製造します。



### 「遺伝子・細胞プロセッシングセンター」の役割





## 宝酒造グループ

(酒類・調味料事業)

売上高

190,089百万円  
(前期比+4.3%)

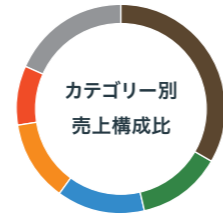
営業利益

7,840百万円  
(前期比+23.9%)

TaKaRaグループの中核事業である酒類・調味料事業の歴史は、1842年までさかのぼります。以来170年にわたり、時代や消費者が求める価値観や嗜好に対して、常に独創的で確かな技術に裏付けられた安心できる商品の提供を使命として活動を続けています。現在の商品カテゴリーは、焼酎、清酒、ソフトアルコール飲料、調味料のほか、ワイン、ウイスキー、中国酒、原料用アルコールなど多岐に広がり、こうした製品を日本国内のみならずグローバルに提供しています。さらに、海外では日本食レストラン向けや小売店に和食の食材・調味料などを販売する海外日本食材卸事業の基盤構築にも注力しています。

### 2015年3月期の業績

- 売上高は、前期比4.3%増収の1,900億89百万円でした。焼酎、ソフトアルコール飲料などが減収となったものの、清酒が売上を伸ばしたほか、海外日本食材卸事業の大幅増収などにより、売上増となりました。
- 利益面では、売上高の増加に伴う売上総利益の増加に加え、原価率が改善したため、販売費及び一般管理費において人件費や運送費などが増加したものの、営業利益は前期比23.9%増益の78億40百万円となりました。



■ 焼酎	33.4%
■ 清酒	13.1%
■ ソフトアルコール飲料	13.6%
■ 調味料	12.4%
■ 海外日本食材卸	9.3%
■ その他	18.2%



## Overseas 海外での事業展開

近年、健康志向の高まりによりおいしくヘルシーな日本食が世界中で広がりを見せている中、清酒「松竹梅」やタカラ本みりんをはじめとする宝酒造製品の輸出および現地での製造・販売を行う海外酒類事業、海外の日本食レストランや小売店に日本食材などを販売する海外日本食材卸事業を2つの柱として事業を展開しています。

海外酒類事業は米国全土および欧州向けに清酒やみりんなどを製造・販売する米国宝酒造、中国で清酒や本みりん、焼酎の製造・販売を行う宝酒造食品、バーボンウイスキー“ブランドン”を扱うエイジ・インターナショナル社、スコッチウイスキーの製造・販売を行うトマーチン社の4社を軸に、事業展開を積極的に進めています。

また、海外日本食材卸事業はフランスのフーデックス社やイギリスのタザキフーズ社、スペインのコミンポート社をグループに迎えるとともに、長年の協力関係にある米国ミューチャルトレーディング社との連携を強化するなど、世界での日本食材卸ネットワークを拡大し、事業の拡大を進めています。

海外酒類事業と海外日本食材卸事業はそれぞれの事業拡大とともに、両事業のシナジーを発揮させ、日本の食文化をさらに世界に広めるとともに、海外市場における新たな販路拡大に取り組んでいきます。



### カテゴリー別事業概要

#### 焼酎

長年培ってきた独自の蒸留技術や貯蔵技術によって、時代が求める焼酎を追求し、市場を創造し続けることで、焼酎市場の発展に貢献してきました。

甲類焼酎では、伝統と安心の甲類焼酎No.1ブランド“宝焼酎”、樽貯蔵熟成酒を3%ブレンドしたひとクラス上の宝焼酎“極上<宝焼酎>”、発売から30年以上のロングセラーを続ける“宝焼酎「純」”など、独自の品質と味わいを持つブランドによりトップシェアを堅持しています。また、本格焼酎では芋100%にこだわった“全量芋焼酎「一刻者(いっこもん)」”、麦本来の味わいを追求した“本格麦焼酎「知心剣(しらしんけん)」”をはじめとするこだわり商品、日常の晩酌ニーズにきめ細かく対応する「よかいち」など、独自の技術によるオリジナリティーのある商品を開発・育成しています。



#### 清酒

松竹梅は、「よるこびの清酒」として慶祝・贈答市場におけるトップブランドの地位を確立しています。

2001年には「本当に旨くてよい酒とは何か」を徹底的に追求するため、伝統的な手造りの原理を再現した最新鋭の設備と、人の手で行う酒造りの両方をあわせもった松竹梅白壁蔵(しらかべくら)を完成させ、新感覚のスパークリング清酒“松竹梅白壁蔵「澤(みお)」”や“松竹梅「白壁蔵」<生酏(きもと)純米>”などの高品質酒を送り出しています。また2011年には、二段酵母仕込みで「コクがあってすっきり辛口」の“松竹梅「天」”に新容器パウチパックを発売。お客様の多様なニーズに応えます。業務市場においては“松竹梅「豪快」”が多くのお客様からご支持をいただいています。これからも松竹梅は造りや原材料にこだわり、新しい商品を提案していきます。



#### ソフトアルコール飲料

下町の大衆酒場で愛され続ける辛い味わいを追求した“タカラ「焼酎ハイボール」”や、1984年に日本初の缶入りチューハイとして衝撃的なデビューを飾って以来、30年以上にわたりご愛飲いただいている“タカラ canチューハイ”など確かな技術に裏打ちされた独自のおいしさが多くのお客様からご支持いただいています。

また、業界初となる果汁を使用しながらも5つのゼロ(糖質ゼロ、プリン体ゼロ、甘味料ゼロ、香料ゼロ、着色料ゼロ)を実現した“TaKaRa果汁入り糖質ゼロチューハイ「ゼロ仕立て」”やジュレタイプのリキュール“ジュレのお酒「果莉那-Carina-」”などお客様に新しいおいしさをお届けする商品の開発・育成に取り組んでいきます。



#### 調味料

本みりんのトップブランドとして日本の食文化とともに進化・発展を続けてきた“タカラ本みりん”や、食塩0(ゼロ)の料理清酒“タカラ料理のための清酒”など、「お酒のチカラでもっとおいしく」をテーマに、料理をおいしく、食卓を豊かにする様々な酒類調味料をご提案しています。

また、加工業務用市場に向けては、惣菜や加工食品などに適した酒類調味料「京寶」ブランドやだし調味料などの商品を取り揃えるとともに、食品分析や調理効果研究、レシピ開発などお客様とともに様々な課題解決に取り組んでいきます。



# TOPICS

## 本格焼酎「黒よかいち」<芋>、<麦>、本格焼酎「赤よかいち」<芋> 720mℓ ペットボトルを新発売

近年、日本のワインのカテゴリーでは、壺よりも軽く、持ち運びしやすいペットボトルの人気が高まっています。宝酒造では2015年1月、本格焼酎「よかいち」ブランドから720mℓ ペットボトルを発売しました。

食卓に並べても映える品質感のあるデザインで、本格焼酎市場での話題喚起と「よかいち」ブランドのさらなる育成に努めていきます。



## “松竹梅ポケットパウチ<上撰>、<辛口>”180mℓ を新発売

宝酒造は2015年2月、“松竹梅ポケットパウチ<上撰>”、“同<辛口>”180mℓ を新発売しました。容器にはスパウト(飲み口)付きパウチパックを採用。直接口をつけて飲むことができ、手軽で持ち運びやすく、ゴミの処理も簡単なので、様々なシーンで気軽にお酒をお楽しみいただけます。“松竹梅ポケットパウチ<上撰>”は軽快でなめらかな味わい、“同<辛口>”はキレのよいすっきりとした味わいが特長。清酒の新たな価値をご提案することで、松竹梅ブランドのさらなる育成に努めていきます。



## “タカラ「焼酎ハイボール」”の新商品を続々発売

“タカラ「焼酎ハイボール」”は2006年の発売以来、アルコール分7%の飲みごたえや糖質の低さがご好評をいただき、9年連続で販売数量を拡大しています。

2014年には新たなラインナップとして、昔懐かしい味わいが特長の<ラムネ割り>と<梅干し割り>を発売。また、<かばす割り><ゆず割り>など、季節の味わいを活かした様々な限定商品も続々登場し、2015年3月期の売上高は120億円以上となりました。



## 加工業務用ルート限定、ごはんの食感を改善する “こうじ調味料「ごはん炊き立て上手」<粒立ち>”新発売

「炊きあがりのごはんのおいしい食感を、時間が経っても維持できないか」。加工食品メーカーや飲食店などのニーズに応じて宝酒造が開発したのが“こうじ調味料「ごはん炊き立て上手」<粒立ち>”です。酒類の醸造技術で培われたノウハウを活かし、米こうじと小麦由来の酵素の力を活用した、粉末タイプのこうじ調味料で、米に加えて炊くと、ごはんに弾力のある食感を付与することができます。

国内での高齢化の進行や女性の社会進出、単身世帯の増加などにより、中食市場の拡大が今後も予想される中、発酵・醸造技術に裏付けされた商品開発と、ユーザーのニーズに応える品揃えで、加工業務用調味料事業のいっそうの伸長を図ります。

## 「International Wine & Spirit Competition 2014」において、 “ブラントンゴールド”がバーボンカテゴリーの最高賞となる バーボン・トロフィーを獲得

宝酒造が輸入販売しているバーボンウイスキー“ブラントンゴールド”が、ヨーロッパ最大のワイン・スピリッツ・リキュールのコンペティションである「International Wine and Spirit Competition (IWSC)※2014」においてバーボンカテゴリーの最高賞であるバーボン・トロフィーを獲得しました。

また、同コンペティションにおいて“ブラントン・ストレート・フロム・ザ・バレル”が金賞(アウトスタンディング)を、“ブラントン”が銀賞(アウトスタンディング)をそれぞれ受賞しました。

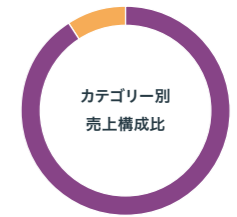
※1969年にイギリスで創設された、ワイン、スピリッツ、リキュールなどの品質向上を目的とする世界で最も歴史と権威があるとされる酒類コンペティション。45回目を迎えた2014年は世界約90カ国から5,000点近くの酒類がエントリーされました。



## タカラバイオグループ (バイオ事業)

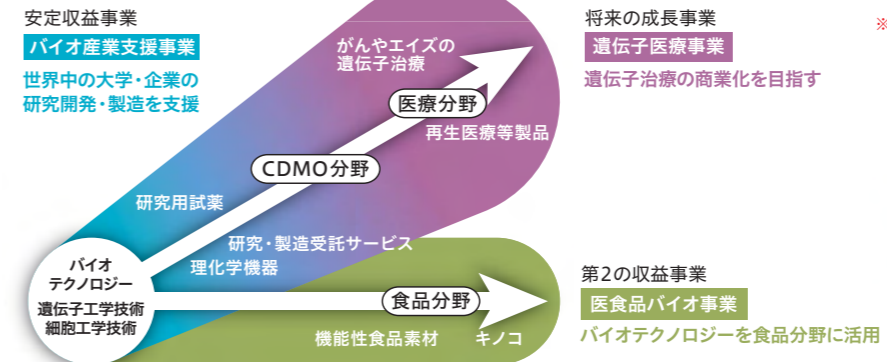
売上高 **25,969** 百万円 (前期比+8.6%)  
営業利益 **2,302** 百万円 (前期比+17.8%)

TaKaRaグループのバイオ事業の使命は、細胞・遺伝子治療などの革新的な技術の開発を通じて人々の健康に貢献することです。その実現を担うタカラバイオグループでは、技術および収益の基盤である「バイオ産業支援事業」により安定的な収益を創出するとともに、第二の収益事業として「医食品バイオ事業」の育成に努めています。この両事業で得た経営資源を「遺伝子医療事業」に投入し、遺伝子治療の早期商業化を目指しています。



■ バイオ産業支援事業 …… 90.9%  
■ 医食品バイオ事業 …… 9.1%  
※当連結会計年度より、遺伝子医療事業の機能の一部をバイオ産業支援事業に移管・統合したことにより、現時点では同事業における売上高の計上はありません。

### タカラバイオのビジネスモデル



### 2015年3月期の業績

- 売上高は、前期比8.6%増収の259億69百万円でした。主力の研究用試薬が円安の影響もあり前期を大きく上回ったほか、受託サービスも好調に推移したことなどにより、売上増となりました。
- 利益面では、売上高の増加に伴う売上総利益の増加に加え、原価率が改善したため、販売費及び一般管理費において研究開発費や人件費などが増加したものの、営業利益は前期比17.8%増益の23億2百万円となりました。

### セグメント別事業概要

#### バイオ産業支援事業

大学の基礎研究から企業の創業研究まで、世界中のバイオ研究を支援しています。遺伝子増幅に用いられる高性能のPCR酵素やリアルタイムPCR装置、幹細胞関連製品など、市場ニーズに応じた試薬や機器を開発・販売するとともに、高速シーケンス解析やiPS細胞作製などの高付加価値受託サービスも提供しています。

2014年10月に「遺伝子・細胞プロセッシングセンター」を稼働させ、今後はCDMO事業を拡大していきます。



## 遺伝子医療事業

コアテクノロジーである遺伝子工学・細胞工学技術を応用して、がんやHIV感染症などを対象にした遺伝子治療の臨床開発を進めています。2019年3月期に悪性黒色腫を対象にした腫瘍溶解性ウイルスHF10の、2022年3月期に固形がんを対象にしたsiTCR遺伝子治療の、2023年3月期にHIV感染症を対象にしたMazF遺伝子治療の商業化を目指します。



## 医食品バイオ事業

日本古来の食品素材をバイオテクノロジーで解析し、ガゴメ昆布「フコイダン」、ボタンボウフウ「イソサミジン」など、素材の機能性を活かした健康食品素材を開発・製造しています。

また、キノコの新品種育成や大規模栽培の技術を活かし、ホンシメジなどを生産・販売しています。



## 宝ヘルスケア (健康食品事業)

宝ヘルスケアは、TaKaRaグループが保有する技術や素材を活かした、高品質で差異化された健康食品を開発し、通販サイトなどを通じて、お客様に直接販売しています。主力製品の「フコイダン」は、北海道産ガゴメ昆布を100%使用し、独自技術により高純度の成分を抽出。多くのお客様からご支持をいただいています。

売上高  
**1,652**百万円  
(前期比+16.0%)

営業利益  
**38**百万円  
(前期比+77.9%)



### 2015年3月期の業績

- 売上高は、前期比16.0%増収の16億52百万円でした。主力の「フコイダン」シリーズや、「イソサミジン」シリーズが前期を上回ったことや、化粧品OEM受託製品の売上増加などにより、増収となりました。
- 利益面では、売上高の増加に伴い売上総利益が増加した結果、販売費及び一般管理費において広告宣伝費などが増加したものの、営業利益は前期比77.9%増益の38百万円となりました。



# TOPICS

## 米国StemCells, Inc.社より幹細胞関連研究用製品に関する資産を取得

タカラバイオと米国StemCells, Inc.社(以下「SCI社」)は、2014年11月10日、SCI社が展開している幹細胞関連研究用製品に関する資産買収契約を締結し、当該製品の製造販売に必要な資産を当社が取得することに合意いたしました。

SCI社は、幹細胞技術を基盤に、中枢神経領域を中心とした幹細胞医療の開発や研究用製品の製造販売などを展開している企業です。当社は、本契約により取得した神経細胞分化用培地や幹細胞培養用培地を中心とした幹細胞関連研究用製品群について、2015年1月22日より、「Cellartis®」ブランドとして全世界で販売を開始しました。

## 仏国Collectis SA社から幹細胞事業会社(旧Cellartis社)を買収

タカラバイオと仏国Collectis SA社(以下「CSA社」)は、2014年7月29日、CSA社の幹細胞事業を担うCollectis AB社(以下「CAB社」)の全株式をタカラバイオが買収することに合意しました。

CAB社は、CSA社が2011年にCellartis社を買収して設立された企業です。同社のiPS細胞などの幹細胞を肝臓細胞や膵臓細胞等へ分化させる分化誘導技術やES細胞、iPS細胞、分化細胞など幹細胞関連製品は、再生医療研究分野や医薬品候補物質の評価試験などにおいて幅広く利用されます。タカラバイオは、CAB社の社名をTakara Bio Europe AB社と改称し、2014年10月1日より、本製品を「Cellartis®」ブランドとして全世界で販売を開始しました。

## 腫瘍溶解性ウイルスHF10の国内第1相臨床試験治験計画届を提出

タカラバイオは、腫瘍溶解性ウイルスHF10(開発コード:TBI-1401(HF10))によるがん治療の第1相臨床試験を日本国内で実施するため、2015年1月21日、医薬品医療機器総合機構に再生医療等製品としての治験計画届を提出しました。

本試験では、悪性黒色腫や皮膚の扁平上皮がんなどの固形がんを対象とし、HF10を反復投与した際の安全性などを評価します。タカラバイオは、2014年11月に施行された「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律(医薬品医療機器等法)」において再生医療等製品に適用される制度(条件及び期限付承認制度)などを活用してHF10の早期承認を目指し、日本国内で2019年3月期に商業化することを目標としています。

## NY-ESO-1・siTCR遺伝子治療の医師主導治験による治験計画届を提出

タカラバイオは、siTCR遺伝子治療技術を用いたがん治療薬の商業化を目指し、三重大学・珠玖洋教授らのグループと共同で開発を進めていますが、2015年2月3日、同グループがNY-ESO-1・siTCR遺伝子治療の第1相臨床試験(医師主導治験)を実施するため、医薬品医療機器総合機構に再生医療等製品としての治験計画届を提出しました。

NY-ESO-1・siTCR遺伝子治療は、がん抗原であるNY-ESO-1抗原をターゲットにした治療です。当社は治験製品であるNY-ESO-1抗原特異的TCR遺伝子導入Tリンパ球を製造し、提供します。また、本治験製品の製造において、当社が開発したレトロネクテン法および三重大学と共同開発したTCR遺伝子導入用レトロウイルスベクターが使用されます。

タカラバイオは、医薬品医療機器等法において再生医療等製品に適用される制度(条件及び期限付承認制度)などを活用し、NY-ESO-1・siTCR遺伝子治療の2022年3月期の商業化を目標としています。

## 新たなサプリメント2製品を新発売

タカラバイオは、寒天由来の「アガフィット<sup>TM</sup>」を配合したサプリメント「アガフィット<sup>TM</sup>」とトゲドコロ由来の「ヤムスゲニン<sup>®</sup>」とイチヨウ葉エキスを配合したサプリメント「イチヨウ葉+ヤムスゲニン<sup>®</sup>」を、2015年3月10日に発売しました。

『アガフィット<sup>TM</sup>』は、寒天由来の独自成分「アガフィット<sup>TM</sup>」を配合し、生活習慣の乱れが気になる方にお勧めのサプリメントです。また、『イチヨウ葉+ヤムスゲニン<sup>®</sup>』は、ヤムイモの一種であるトゲドコロ由来の健康成分「ヤムスゲニン<sup>®</sup>」粉末とイチヨウ葉エキスを配合し、冴えた毎日を送りたい方にお勧めです。



# 安心・安全な商品・サービスをお届けするとともに、医療の進歩に貢献し、企業価値向上に努めます。

TaKaRaグループは、企業理念ならびに「TaKaRaグループ中期経営計画2016」に基づき、ESG側面の強化に取り組んでいます。「1. 安全・安心、そして健康」「2. 風土の醸成、人財の育成」「3. 環境保全の推進」「4. ガバナンスの強化」という4つの重点分野において多彩な活動を展開し、グループ全体の企業価値向上に努めています。

## 重点分野

宝ホールディングス 宝酒造グループ タカラバイオグループ

1. 安全・安心、そして健康

2. 風土の醸成、人財の育成

3. 環境保全の推進

4. ガバナンスの強化

## 1. 安全・安心、そして健康

### 宝酒造における品質管理

宝酒造では、食の安全・安心を確保するために全工場で品質マネジメントシステムの国際規格ISO9001の認証を取得し、厳正な品質管理を実施しています。

また、原材料・栄養成分などを正確にお伝えるために、厳格なラベル表示審査を実施しています。

### 誤認飲酒の防止

宝酒造は、目の不自由な方の誤認飲酒を防ぐため、1995年に国内で初めて缶チューハイの缶ぶたに点字の「おさけ」表示を開始しました。また2002年に、やはり国内で初めて紙パック酒類のキャップへの点字表示を始めました。

2011年からは、アルコール分10度未満で300ml以下のすべての酒類に「お酒」マークを表示しています。

### 適正飲酒の啓発

宝酒造は、「ルールを守った節度ある飲酒」の啓発に取り組んでいます。酒類製品には未成年者の飲酒や飲酒運転を防止するための注意表示を記載しています。

また、「お酒おつきあい読本」と題した冊子を発刊し、酒類の正しい知識・飲み方を紹介しています。

### タカラバイオにおける品質管理

タカラバイオでは、研究用試薬や生鮮キノコなどの原料選定から製造、出荷に至るまで、確かな品質管理体制を確立しています。

研究用試薬を製造する宝生物工程(大連)有限公司および、再生医療等製品などの製造開発拠点CDMセンターでは、品質マネジメントシステムの国際規格ISO9001の認証を取得し、厳正な品質管理を実施しています。また、治験薬を製造する国内施設ではGCTP/GMPIに準拠した品質管理

### 外部機関からの評価 SRI(社会的責任投資)インデックスへの選定

「FTSE4Good Index Series」は、英国のFTSE社(ロンドン証券取引所が全額出資する子会社)が、世界25カ国・約2,400社の上場企業を対象に調査し、環境・社会に関する国際基準に達した企業銘柄を選定したインデックスです。当社は、環境に配慮した事業の取り組みや社会貢献活動が評価され、同インデックスの構成銘柄の一つに選定されています。

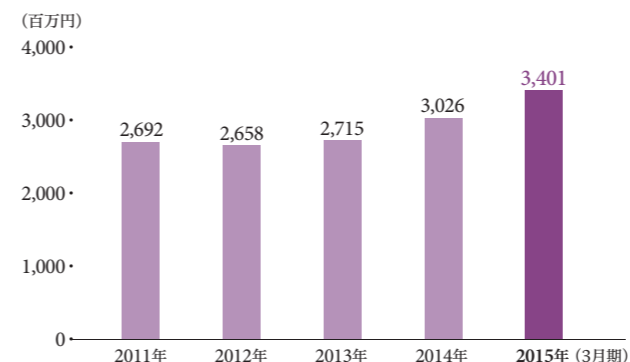


体制を構築し、製造品に対して各種品質・安全性試験を実施しています。

### 先端医療技術の開発

タカラバイオは、革新的なバイオ技術を活かして、がんやエイズといったアンメット・メディカルニーズへの対応を目指した遺伝子治療や細胞医療などの先端医療技術の開発・商業化を進めています。

### タカラバイオグループの研究開発費推移



### 研究開発における倫理

タカラバイオでは、ヒト由来の組織・細胞・臨床材料・ゲノム・遺伝子などを用いた研究開発事業、これらを用いた遺伝子検査・解析受託業務に関する事業およびヒト組織・細胞製品の供給に関する事業、または技術供与を目的として参加する臨床研究などを行っています。

これらの事業活動を行ううえで、関連法規の遵守はもとより、人権の尊重ならびに当該事業活動を通じた社会貢献が適切に行われることが重要と認識し、「生命倫理・安全規程」を定め、社内を設置した生命倫理委員会が厳格な審査を実施しています。

## 2. 風土の醸成、人財の育成

### 事業戦略を支える人財の育成

TaKaRaグループでは、事業戦略を支える多様な人財の活用・育成を推進しています。

例えば、宝酒造で2005年から年1回実施している「いきいき実践研修」では、「業績向上のために私達ができること」

をテーマとして、業務の中で感じていること、考えていることを研修の場でまとめ、社長をはじめとする経営層にダイレクトに提案しています。それによって、会社全体の業績向上と、いきいきとした組織づくりを目指しています。

また、企業価値の向上を実現するためには、「風土・人財の進化」が欠かせないと考え、人間尊重の立場に立ち、「いきいきと明るい職場、人を育む風土」をつくり、その中で「企業人・社会人・個人のバランスのとれた人財」を育成しています。

## 3. 環境保全の推進

### 生物多様性の保全

宝ホールディングスでは、公益信託「タカラ・ハーモニストファンド」を1985年に設立し、以降毎年、自然環境保護活動や研究に地道に取り組む団体や個人に対して助成を行っています。第1回から2015年3月期までの助成先数は延べ312件、助成金累計は約1億49百万円になりました。

また、宝酒造では、2004年から、次世代を担う子供たちに自然の尊さや生物多様性の大切さを伝える「宝酒造 田んぼの学校」を開校しています。



### CO2排出量の削減

宝酒造では、生産工程で使う蒸気を作るために重油やガスを、容器への製品充填などの工程で電気を使用するほか、工場からの商品物流においてもCO2を排出しています。

2015年3月期は、重油ボイラーの一部を高効率のガスボイラーに転換し、また、アルコール蒸留工程の改善なども進めました。これらの取り組みにより、前期比で、生産部門では総量1.9%、原単位3.5%、物流部門では総量3.9%、原単位3.0%、それぞれCO2を削減することができました。

### 水使用量の削減

宝酒造では、お酒の原料としてはもちろんのこと、装置や容器の洗浄、アルコール蒸留や商品の冷却などにも水を使用しています。これらの工程において再利用や節水に努め、水使用量の削減に取り組んでいます。

2015年3月期は、生産設備の洗浄方法の改善などを進め、前期比で総量は2.2%、原単位は3.8%削減することができました。

### 4Rの取り組み

酒類業界にとって、空容器問題は重要な課題です。宝酒造では、新たな容器の発生を回避する「はかり売り」を実施するなど、容器の4R(リフューズ:発生回避、リデュース:減量化、リユース:再利用、リサイクル:再資源化)を推進しています。「はかり売り」に関しては、1998年の開始以来2015年3月までに、2.7ℓペットボトルで約792万本、段ボールで約198万枚を節約することができました。

なお、このたび、長年の活動が評価され、平成26年度リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰において、全国114件の応募の中から、最高賞である「内閣総理大臣賞」を受賞しました。



## 4. ガバナンスの強化

### コーポレート・ガバナンス体制

#### コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

TaKaRaグループでは、コーポレート・ガバナンスの充実を、持続的な企業価値向上のための重要な経営課題と捉え、以下の基本的な考え方のもと、その充実に努めています。

#### 当社グループ全体の企業価値向上のために、

- ① グループ各社に権限を委譲し、自立経営のもと事業の展開スピードをあげ、各社において企業価値向上を追求する。
- ② 会議体の定期的な運営等を通じ、各社の事業報告や今後の経営方針・事業戦略について意見交換しあえる風土を維持することで、グループ全体の企業価値向上を追求する。
- ③ 法令遵守の姿勢や倫理性を確保し、コンプライアンス体制を維持することで、グループ全体での企業の社会的責任を果たす。
- ④ オープンかつタイムリー、そして正確な情報開示を継続し、適時開示に対する社内体制を維持することで、経営の透明性を高める。

#### コーポレート・ガバナンスの体制

当社は監査役設置会社であり、2015年6月26日現在、監査役会は5名(うち3名は社外監査役)で構成されています。また、取締役会は9名で構成されており、うち1名は社外取締役です。この体制下において、監査役監査に加え、株主を含むすべてのステークホルダーの視点に立脚する幅広い見識をもった独立性の高い社外取締役が、監査役会や内部統制担当役員と連携を図り業務執行の監査・監督に関与することで、経営に対する監督機能を強化しています。

一方で、持株会社として、グループ各社の独自性・自立性を維持しつつ、グループ全体の企業価値の最大化を図ることを目的に「グループ会社管理規程」を制定しています。また、業務執行上の意思決定および経営層に対する情報提供が適正かつ迅速に行われるよう、「グループ戦略会議」、「マザー協議連絡会議」、「タカラバイオ連絡会議」、「宝ヘルスケア戦略会議」、「機能子会社協議連絡会議」を通じて重要案件に関する事前協議や報告を実施することを義務付けています。

#### 内部監査、監査役監査および会計監査の状況

当社の監査役は、取締役会等の重要会議への出席や業務・財産および重要書類の調査ならびに必要に応じて担当取締役および担当者への聞き取り調査等を実施し、これらを通じて、取締役の職務執行の監査を行っています。

内部監査については、被監査部門から独立した監査部を設置し、「内部監査規程」に基づく内部監査を実施して必要な対策を講じることにより、職務執行の適正確保に努めています。なお、監査部、監査役会および会計監査人は、監査計画・監査方針・監査実施状況に関して定期的に情報・意見交換、協議を行うなど、相互連携を図っています。

#### 社外取締役および社外監査役

当社の社外取締役は1名、社外監査役は3名です。当社には、社外取締役または社外監査役の独立性に関する具体的な基準または方針はありませんが、東京証券取引所の規則等

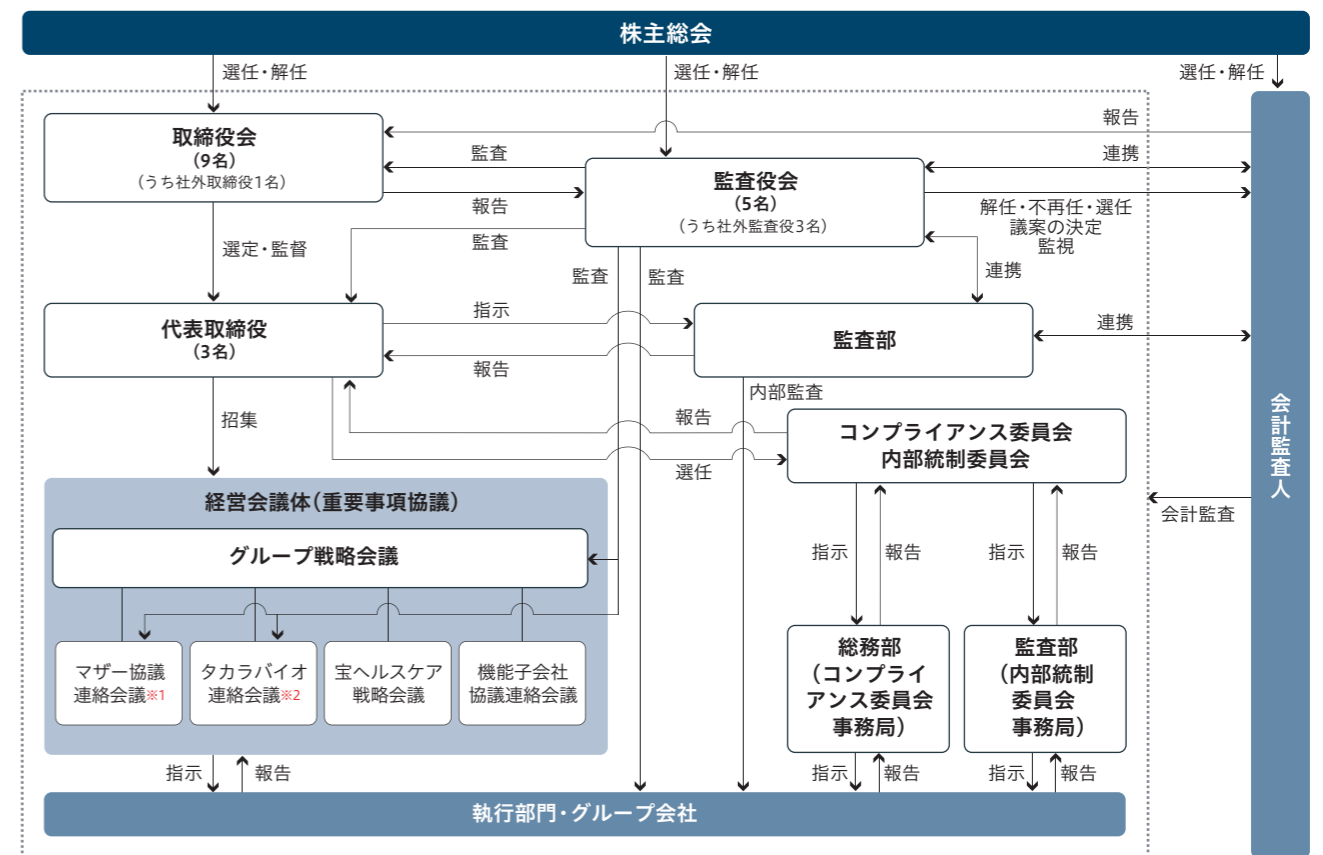
に定める形式要件ならびに各個人のそれまでの職歴やその人格・識見などを総合的に判断することとしています。

#### 報酬額の決定に関する方針・決定方法について

取締役と監査役の報酬については、株主総会で決議されたそれぞれの報酬総額の限度額の範囲内において取締役会で承認された「役員報酬内規」に基づいて決定しています。

取締役の報酬額は、役職位に応じた役付部分と、役位ごとの基準金額をもとに各取締役の前年度の業績評価の点数に応じて決定される業績評価部分からなります。なお、業績評価部分の取締役個々の業績評価は、取締役会の授権を受けた取締役が行っており、監査役の報酬額は監査役の協議によって決定しています。「役員報酬内規」の改定は、取締役に関する部分は取締役会の決議、監査役に関する部分は監査役の協議を経るものとしています。

コーポレート・ガバナンス体制の模式図(2015年6月26日現在)



※1 マザー協議連絡会議は、宝酒造株式会社の取締役会決議事項の事前協議や業績・活動状況等の報告を目的としたものです。  
 ※2 タカラバイオ連絡会議は、タカラバイオ株式会社の業績・活動状況等の報告を目的としたものであり、同社の取締役会決議事項の事前承認等は求めておらず、同社の自主性・独立性を妨げるものではありません。

## コーポレート・ガバナンスに重要な影響を与える特別な事情

### 当社の上場子会社タカラバイオ株式会社について

2015年3月31日現在、当社は、タカラバイオ株式会社(東証マザーズ、コード番号4974)の議決権の60.9%を所有する親会社であり、当社と同社の関係は以下の通りです。

#### ① 当社グループにおけるタカラバイオ株式会社の位置付け

タカラバイオ株式会社は、2002年4月1日に、物的分割の方法により当社の100%子会社として設立しました。その後、当社の議決権所有比率は、同社による第三者割当増資、公募増資、新株予約権付社債の発行等により、現在の議決権所有比率となっています。

2015年3月31日現在、当社グループは、純粋持株会社である当社、子会社46社および関連会社3社で構成され、その中でタカラバイオ株式会社はバイオテクノロジー専門の事業子会社として位置付け、当社グループとしてバイオ事業を推進しています。

#### ② 当社のグループ会社管理について

タカラバイオ株式会社についても、前述の「グループ会社管理規程」を適用し、同社の取締役会において決議された事項等の報告を受けていますが、取締役会決議事項の事前承認等は求めておらず、同社が独自に事業運営を行っています。

また、「グループ戦略会議」、「タカラバイオ連絡会議」等の会議体では、必要に応じてタカラバイオ株式会社の代表取締役、役員、執行役員等の出席を求めています。これらの会議体は、グループ全体の方針についての討議や、グループ会社間の報告を目的としたものであり、同社の自主性・独立性を妨げるものではありません。

### 当社株券等の大規模な買付行為に対する対応方針(買収防衛策)について

当社は、2006年5月15日の当社取締役会決議により、企業価値、ひいては、株主の皆様の共同の利益を確保し、または向上させることを目的に、「当社株券等の大規模な買付行為に対する対応方針(買収防衛策)」を導入しました。

しかし、株主の皆様の意思をより多く反映させることが株主の皆様の共同の利益の最大化に資するとの考えから、2007年5月15日開催の当社取締役会において、買収防衛策

の導入を当社の株主総会にお諮りして株主の皆様の決議に付すこと、および、対抗措置発動の判断は、原則として当社の株主総会での決議をもって執り行うこと、といった内容を有する買収防衛策に変更することを決議し、同年6月28日開催の当社第96回定時株主総会において買収防衛策の導入が承認可決されました。その内容につきましては、当社ホームページ(<http://www.takara.co.jp/>)ならびに有価証券報告書において概要を掲載しています。

なお、2010年6月29日開催の当社第99回定時株主総会において買収防衛策の一部変更および継続が承認可決され、さらに2013年6月27日開催の当社第102回定時株主総会において、その継続が承認可決されています。

## コンプライアンス体制

### 誠実で公正な企業活動を確保するために

TaKaRaグループでは、誠実で公正な企業活動を確保するため、社長を委員長とした「コンプライアンス委員会」を設置し、グループ全体のコンプライアンス推進体制の強化を図っています。そして、グループ各社が適正に、法・社会倫理を遵守し、危機管理に対応することで、TaKaRaグループ全体が企業の社会的責任を果たし、企業価値を向上させることを目指しています。また、「TaKaRaグループコンプライアンス行動指針」に基づき、トップ・管理職・一般社員の各階層別に、集合研修や職場教育などを実施し、コンプライアンスマインドの浸透・定着を図っています。

法令違反や不正行為を発見した場合の通報窓口として設置している「ヘルプライン」には、社内(総務部)と社外(第三者機関)の二つの窓口を設けています。ヘルプラインは、「公益通報者保護法」と「ヘルプライン規程」に基づいて相談者の匿名性・プライバシーを守り、相談したことで不利益な取り扱いを受けることがないように運用されています。寄せられた通報に対しては、秘密保持に十分に配慮したうえで調査し、確認された事実関係に基づき適切に対応しています。

## リスクマネジメント体制

### 平時・緊急時の対応体制

TaKaRaグループでは、職場を総点検し、リスクを洗い出すことで、優先順位を付けながらリスクの顕在化防止・軽減活動を進めています。このような活動は毎年繰り返し実施し、

その活動結果をコンプライアンス委員会で報告しています。

また、人命・身体に危険が及ぶおそれのある事態、企業の信用や資産に重大な影響が及ぶおそれのある事態などが発生した場合は、緊急対策本部を設置するとともに、各部署が連携し、迅速かつ的確に対応します。

### 事業継続計画(BCP)

大規模地震の発生により想定される被害への対策を検討し、事業継続計画(BCP:Business Continuity Plan)を策定

しています。

東日本大震災の経験をふまえ、計画の実効性をさらに高めるため、事業継続計画検討委員会および事業継続計画検討部会において検討を重ね、事業継続に必要な対策を推進しています。

具体的には、自家発電装置導入による生産拠点での電力確保、情報伝達の確実性向上および被災時に設置するバックアップオフィスの準備などに対応しているほか、計画に基づく訓練などを実施し、実効性を確認しています。

## 社外取締役メッセージ

### 今後のリーダーシップの継承と、企業価値の向上を願っています

私は、2007年6月より8年間、当社の社外取締役を務めてまいりました。2012年には社長交代がありましたが、しっかりとガバナンス体制と前社長の宮会長様の強い経営意思は柿本社長へと受け継がれ、業績、企業価値も着実に向上しました。

今般、当社は創立90周年を迎えますが、社内では、内外グループ会社も含め過去の歴史を学び、企業理念の徹底を図りそれを将来に活かす取り組みが行われています。単に体制を構築するだけでなく、それを担う人材、経営主体の育成強化に取り組んでいることは会社の存続発展の礎になるものだと思います。

近年は海外事業に力を入れています。当社の収益力はしっかりしていると思いますが、海外展開を進めると、ROEをはじめとするグローバルな指標で評価されることになります。当社は様々な事業のもとで多種多様な製品を有していますが、事業や製品ごとの収益性を見極めることで、トータルでの収益力を向上させていくことが必要だと思います。

経営陣幹部の強いリーダーシップが、今後の世代交代の中でも将来にわたって継承され、企業価値のさらなる向上が実現されることを願っています。



社外取締役  
植田 武彦  
(2015年6月26日退任)

### 経験を活かし、ガバナンス強化に貢献できるよう努めていきます

2015年6月26日に、新たに当社の社外取締役に就任いたしました。

時代と共に社会や人々の暮らし・価値観は、グローバルに、また多様に大きく変化しています。当社は、そのような環境変化にタイムリーに対応しつつ、事業を通じて長年、人間の健康的で豊かな暮らしに貢献してきました。これから将来にわたって、お客様に期待される企業であり続けるためには、発酵やバイオ技術の絶えざるイノベーションとそれを支える開かれたコーポレート・ガバナンスが極めて重要です。

私は、家電メーカーで、33年間、生活に密着した白物家電の商品開発やマーケティングリサーチを経験してまいりました。このたび、独立社外取締役としての私の役割は、これまでの企業経験や生活者としての視点を活かし、社外・専門外の立場から、経営に対し、企業価値向上を常に念頭に置きながら意見を述べることでと考えています。

持続的な事業成長に向けたコーポレート・ガバナンス強化に貢献できるよう精一杯取り組んでまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。



社外取締役  
藪 ゆき子  
(2015年6月26日就任)

取締役



大宮 久 (72歳)

宝ホールディングス株式会社  
代表取締役会長  
兼 宝酒造株式会社 代表取締役会長  
兼 タカラバイオ株式会社 取締役会長

1968年4月 当社入社  
1974年4月 開発部長  
5月 取締役  
1982年6月 常務取締役  
1988年6月 専務取締役  
1989年7月 パイオ事業部門本部長  
1990年4月 東地区酒類事業部門本部長  
1991年6月 代表取締役副社長  
1993年4月 酒類事業部門本部長  
6月 代表取締役社長  
2002年4月 宝酒造(株)代表取締役社長  
タカラバイオ(株)取締役会長(現職)  
2012年6月 当社代表取締役会長(現職)  
宝酒造(株)代表取締役会長(現職)



大宮 正 (65歳)

宝ホールディングス株式会社  
代表取締役副会長  
兼 宝酒造株式会社 代表取締役副会長

2000年2月 (株)富士銀行国際部参事役  
5月 同行退職  
6月 当社入社  
2001年4月 経営企画室長  
2002年4月 経営企画統括部長  
宝酒造(株)常務取締役  
6月 当社取締役  
2004年6月 代表取締役副社長  
2005年6月 宝酒造(株)専務取締役  
2006年6月 宝酒造(株)代表取締役副社長  
2012年6月 当社代表取締役副会長(現職)  
2013年6月 宝酒造(株)代表取締役副会長  
(現職)



柿本 敏男 (64歳)

宝ホールディングス株式会社  
代表取締役社長  
兼 宝酒造株式会社 代表取締役社長

1973年4月 当社入社  
1998年4月 製造部長  
2003年6月 宝酒造(株)取締役  
2004年6月 宝酒造(株)常務取締役  
2010年6月 当社代表取締役副社長  
宝酒造(株)代表取締役副社長  
2012年6月 当社代表取締役社長(現職)  
宝酒造(株)  
代表取締役社長(現職)



木村 睦 (52歳)

宝ホールディングス株式会社  
取締役 事業管理、財務・IR、人事、経理・  
シェアードサービス、事業支援・IT推進担当  
兼 宝酒造株式会社 専務取締役

1985年4月 当社入社  
2002年4月 会社分割に伴い、  
タカラバイオ(株)取締役就任  
2004年6月 タカラバイオ(株)常務取締役  
2007年6月 タカラバイオ(株)専務取締役  
2009年5月 タカラバイオ(株)取締役副社長  
2009年6月 タカラバイオ(株)  
代表取締役副社長  
2014年6月 当社取締役(現職)  
宝酒造(株)専務取締役(現職)



鷺野 稔 (60歳)

宝ホールディングス株式会社  
取締役 環境広報担当、総務担当、総務部長  
兼 宝酒造株式会社 取締役

1978年4月 当社入社  
2003年4月 法務グループ  
ジェネラルマネージャー  
2012年4月 総務部長(現職)  
2014年6月 取締役(現職)  
宝酒造(株)取締役(現職)



藪 ゆき子 (57歳)

宝ホールディングス株式会社  
取締役(社外取締役)  
兼 宝酒造株式会社 取締役(社外取締役)

2013年4月 パナソニック株式会社  
アプライアンス社  
グローバルマーケティング  
プランニングセンター  
コンシューマリーサーチ担当理事  
兼 グループマネージャー  
2014年3月 同社退社  
2015年6月 当社取締役(現職)  
宝酒造(株)取締役(現職)



中尾 大輔 (61歳)

宝ホールディングス株式会社  
取締役  
兼 宝酒造株式会社 代表取締役副社長

1976年4月 当社入社  
2000年4月 営業部長  
2001年6月 取締役  
2002年3月 取締役退任  
4月 会社分割に伴い、宝酒造(株)  
常務執行役員就任  
2004年6月 宝酒造(株)取締役  
2006年6月 宝酒造(株)常務取締役  
2009年6月 当社取締役(現職)  
宝酒造(株)専務取締役  
2013年6月 宝酒造(株)代表取締役副社長  
(現職)



仲尾 功一 (53歳)

宝ホールディングス株式会社  
取締役  
兼 タカラバイオ株式会社 代表取締役社長

1985年4月 当社入社  
2002年4月 会社分割に伴い、  
タカラバイオ(株)取締役就任  
2003年6月 タカラバイオ(株)常務取締役  
2004年6月 タカラバイオ(株)専務取締役  
2007年6月 タカラバイオ(株)代表取締役副社長  
2009年5月 タカラバイオ(株)代表取締役社長(現職)  
Takara Bio USA Holdings Inc.  
代表取締役社長(現職)  
宝生物工程(大連)有限公司董事長(現職)  
宝日医生物技術(北京)  
有限公司董事長(現職)  
6月 当社取締役(現職)  
2010年3月 Takara Korea Biomedical Inc.  
代表理事会長(現職)



伊藤 和慶 (54歳)

宝ホールディングス株式会社  
取締役  
兼 宝酒造株式会社 常務取締役

1985年4月 当社入社  
2008年4月 宝酒造(株)常務執行役員  
海外事業本部長(現職)  
2013年6月 当社取締役(現職)  
宝酒造(株)取締役  
2014年6月 宝酒造(株)常務取締役(現職)

監査役

渡邊 酉造 (59歳)

宝ホールディングス株式会社  
常勤監査役  
兼 宝酒造株式会社 監査役

1978年4月 当社入社  
2003年6月 宝酒造(株)技術グループ  
ジェネラルマネージャー  
2007年4月 同社黒壁蔵工場長  
2009年4月 同社執行役員黒壁蔵工場長  
2011年4月 同社執行役員松戸工場長  
2013年4月 同社執行役員品質保証部長  
2015年6月 当社常勤監査役(現職)  
宝酒造(株)監査役(現職)

三枝 智之 (59歳)

宝ホールディングス株式会社  
監査役(社外監査役)  
兼 宝酒造株式会社 常勤監査役(社外監査役)

2011年6月 農林中央金庫監事  
2013年6月 同金庫監事退任  
当社監査役(現職)  
宝酒造(株)常勤監査役(現職)

山中 俊人 (54歳)

宝ホールディングス株式会社  
常勤監査役(社外監査役)  
兼 宝酒造株式会社 監査役(社外監査役)

2012年4月 (株)みずほ銀行営業店  
業務第三部長  
2013年4月 同行グループ人事部審議役  
6月 同行退職  
当社常勤監査役(現職)  
宝酒造(株)監査役(現職)

北井 久美子 (62歳)

宝ホールディングス株式会社  
監査役(社外監査役)  
兼 宝酒造株式会社 監査役(社外監査役)

2005年8月 厚生労働省雇用均等・児童家庭局長  
2007年8月 同省退官  
中央労働災害防止協会専務理事  
2011年5月 同協会理事退任  
2011年6月 当社監査役(現職)  
宝酒造(株)監査役(現職)

上田 伸次 (62歳)

宝ホールディングス株式会社  
監査役  
兼 宝酒造株式会社 常勤監査役  
兼 タカラバイオ株式会社 監査役(社外監査役)

1976年4月 当社入社  
2001年6月 秘書室長  
2013年6月 監査役(現職)  
宝酒造(株)常勤監査役(現職)  
タカラバイオ(株)監査役(現職)

10ヵ年連結財務サマリー  
(2015年3月期)

期間項目	単位：百万円 <sup>(注1)</sup>				単位：百万円 <sup>(注1)</sup>						単位：千米ドル <sup>(注2)</sup>
	2015年3月期	2014年3月期	2013年3月期	2012年3月期	2011年3月期	2010年3月期	2009年3月期	2008年3月期	2007年3月期	2006年3月期	2015年3月期
売上高	¥ 219,490	¥ 209,568	¥ 200,989	¥ 198,690	¥ 189,769	¥ 190,525	¥ 192,790	¥ 191,878	¥ 198,535	¥ 196,119	\$ 1,829,083
宝酒造グループ	190,089	182,306	176,946	175,503	166,790	166,969	169,301	166,788	174,143	176,626	1,584,075
タカラバイオグループ	25,969	23,905	20,564	19,578	18,737	19,325	18,913	20,278	20,982	16,534	216,408
宝ヘルスケア	1,652	1,424	2,008	2,338	2,567	2,486	2,853	3,087	396	—	13,766
その他(連結消去含む)	1,779	1,931	1,469	1,269	1,673	1,743	1,722	1,733	3,013	2,958	14,825
売上原価	134,390	129,447	123,630	121,462	115,480	115,805	118,849	117,864	122,325	120,132	1,119,916
売上総利益	85,099	80,121	77,359	77,228	74,289	74,719	73,941	74,014	76,210	75,986	709,158
販売費及び一般管理費	74,003	70,631	68,225	67,963	65,953	66,146	65,090	65,507	68,550	70,062	616,691
営業利益(損失)	11,096	9,490	9,133	9,264	8,335	8,572	8,851	8,506	7,660	5,924	92,466
宝酒造グループ	7,840	6,329	6,387	6,768	6,568	7,129	7,465	7,177	6,568	5,949	65,333
タカラバイオグループ	2,302	1,954	1,691	1,547	1,097	553	426	560	(215)	(1,486)	19,183
宝ヘルスケア	38	21	(22)	(114)	(252)	(316)	(356)	(500)	(161)	—	316
その他(連結消去含む)	914	1,184	1,076	1,063	921	1,206	1,315	1,268	1,468	1,460	7,616
税金等調整前当期純利益	11,453	18,642	9,256	8,590	7,505	8,208	8,193	8,321	7,660	7,876	95,441
当期純利益	5,706	10,280	4,687	3,995	3,788	4,677	5,639	4,658	4,208	5,320	47,550
有形固定資産の減価償却費 及びその他の償却費	5,537	4,997	4,973	5,209	5,384	5,652	5,992	6,384	6,692	6,755	46,148
資本的支出	9,533	8,967	5,282	5,330	3,735	3,645	3,616	3,852	3,617	5,633	79,441
研究開発費	3,754	3,376	3,090	3,027	3,076	3,665	3,343	3,643	3,593	3,574	31,283
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,545	7,233	7,967	9,013	9,462	10,452	8,954	9,816	12,782	6,211	79,541
投資活動によるキャッシュ・フロー	(10,253)	(12,254)	(3,672)	(4,779)	(11,323)	(7,350)	(7,769)	(411)	(7,526)	(12,687)	(85,441)
財務活動によるキャッシュ・フロー	6,819	2,562	1,229	(3,265)	(3,199)	(3,219)	(9,294)	3,414	(1,558)	344	56,825
フリー・キャッシュ・フロー	(708)	(5,021)	4,295	4,233	(1,861)	3,102	1,184	9,404	5,256	(6,475)	(5,900)
<b>期末項目</b>											
総資産	¥ 264,438	¥ 238,577	¥ 207,586	¥ 197,437	¥ 192,448	¥ 195,495	¥ 190,792	¥ 207,843	¥ 213,393	¥ 212,466	\$ 2,203,650
有利子負債	48,324	38,909	43,098	38,493	38,881	39,162	39,092	43,717	39,083	39,330	402,700
純資産	158,404	146,422	114,318	107,659	106,895	109,206	105,316	113,273	115,570	—	1,320,033
自己資本	131,923	121,431	100,040	94,783	94,308	96,666	93,093	99,969	102,507	101,839	1,099,358
<b>1株当たり(単位：円)：</b>											(単位：米ドル)
当期純利益	¥ 28.36	¥ 50.83	¥ 23.01	¥ 19.32	¥ 18.21	¥ 22.20	¥ 26.32	¥ 21.53	¥ 19.44	¥ 24.39	\$ 0.23
純資産	655.60	603.44	493.14	461.41	454.21	459.92	437.42	462.00	473.61	473.10	5.46
配当金	10.00	11.00	9.00	9.00	8.50	8.50	8.50	8.50	7.50	9.00	0.08
<b>指標(単位：%)：</b>											
総資産当期純利益率	2.3%	4.6%	2.3%	2.0%	2.0%	2.4%	2.8%	2.2%	2.0%	2.6%	—
自己資本当期純利益率	4.5	9.3	4.8	4.2	4.0	4.9	5.8	4.6	4.1	5.6	—
自己資本比率	49.9	50.9	48.2	48.0	49.0	49.4	48.8	48.1	48.0	47.9	—
配当性向	35.3	21.6	39.1	46.6	46.7	38.3	32.3	39.5	38.6	36.9	—
みなし配当性向 <sup>(注3)</sup>	28.3	37.6	32.2	33.9	35.9	35.4	34.7	36.7	35.9	55.8	—

(注) 1. 百万円未満は切り捨てにより算出しています。  
2. 米ドルは2015年3月31日現在のレート(近似的に120円/ドル)で便宜換算しています。  
3. みなし配当性向=配当総額÷(連結営業利益×(1-法定実効税率))

## 主要子会社データ

(2015年6月30日現在)

会社名	所在地	資本金	議決権の 所有割合	主な事業内容
<b>宝酒造株式会社</b>	〒600-8688 京都府京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20 TEL 075-241-5110 【お客様相談室】 TEL 075-241-5111	1,000百万円	100.0%	酒類、調味料、原料用アルコールの製造・販売
タカラ物流システム株式会社	〒610-0343 京都府京田辺市大住濱55-13 TEL 0774-68-1720	50百万円	(100.0%)	運送業、倉庫業、自動車整備業、損害保険代理業、旅行業等
タカラ長運株式会社	〒850-0075 長崎県長崎市西泊町22-38 TEL 095-894-8701	250百万円	(100.0%)	運送業、通関業、倉庫業等
株式会社ラック・コーポレーション	〒107-0052 東京都港区赤坂3-2-12 TEL 03-3586-7501	80百万円	(100.0%)	ワイン輸入販売
タカラ物産株式会社	〒612-8338 京都府京都市伏見区舞台町9 TEL 075-601-6267	10百万円	(100.0%)	飼料販売
タカラ容器株式会社	〒612-8061 京都府京都市伏見区舞台町9 TEL 075-605-4540	30百万円	(100.0%)	容器卸売業
株式会社トータルマネジメントビジネス	〒612-8061 京都府京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20 TEL 075-241-5172	20百万円	(100.0%)	マーケティングに関する調査、販促企画、人材派遣事業
Takara Sake USA Inc.(米国)	708 Addison St., Berkeley, CA 94710, U.S.A. TEL 510-540-8250	7,000千ドル	(90.0%)	酒類製造・販売
Age International, Inc.(米国)	229 W.Main St., Frankfort, KY 40602, U.S.A. TEL 502-223-9874	250千ドル	(100.0%)	バーボンウイスキーの販売
The Tomatin Distillery Co., Ltd.(英国)	Tomatin, Inverness-shire, IV13 7YT Scotland, U.K. TEL 1463-248-148	3,297千ポンド	(80.6%)	スコッチウイスキーの製造・販売
TAZAKI FOODS LTD.(英国)	Unit 4, Delta Park Industrial Estate, Millmarsh Lane Enfield, EN3 7QJ, U.K. TEL 20-8344-3000	357千ポンド	(100.0%)	酒類・食品・調味料等の輸入・卸売業
FOODEX S.A.S.(仏国)	4, impasse des Carrières 75016 Paris, France TEL 1-4647-4439	250千ユーロ	(80.0%)	酒類・食品・調味料等の輸入・卸売業
Cominport Distribución S.L.(スペイン)	Avenida Marconi nave 1 - P.A.E. Neysa Sur - 28021, Madrid, Spain TEL 915-413-750	143千ユーロ	(100.0%)	酒類・食品・調味料等の輸入・卸売業
宝酒造食品有限公司(中国) (英文名: Takara Shuzo Foods Co., Ltd.)	No.31 Nanyuan West St. Fengtai District Beijing, China 100076 TEL 10-6791-1363	130,000千元	(62.0%)	酒類、調味料、原料用アルコールの製造・販売、宝酒造グループ製品の輸入販売
上海宝酒造貿易有限公司(中国) (英文名: Shanghai Takara Shuzo International Trading Co., Ltd.)	Room 103, Building 12, No.505, Zhong Shan Nan Road, Shanghai, China 200010 TEL 21-6152-6623	4,896千元	(100.0%)	宝酒造グループ製品の輸入販売

<b>タカラバイオ株式会社</b>	〒520-0058 滋賀県草津市野路東7-4-38 TEL 077-565-6920	14,965百万円	60.9%	研究用試薬、理化学機器の開発・販売、研究受託サービス、遺伝子治療の商業化、健康食品、キノコの製造・販売
-------------------	---	-----------	-------	---

### タカラバイオ株式会社の連結子会社

瑞穂農林株式会社	〒622-0313 京都府船井郡丹波町保井谷三ツ枝38	10百万円	(49.0%)	キノコの製造・販売
有限会社タカラバイオ ファームセンター	〒891-4207 鹿児島県熊毛郡屋久島町小瀬田810-9	3百万円	(48.3%)	農作物の生産・販売
株式会社きのこセンター金武	〒904-1201 沖縄県国頭郡金武町字金武9006	5百万円	(49.0%)	キノコの製造・販売
Clontech Laboratories, Inc.(米国)	1290 Terra Bella Avenue, Mountain View, CA 94043, U.S.A.	83千ドル	(100.0%)	研究用試薬の開発・販売
Takara Bio Europe S.A.S.(仏国)	2, avenue du president Kennedy, 78100 St Germain en Laye, France	600千ユーロ	(100.0%)	研究用試薬の販売
Takara Bio Europe AB(スウェーデン)	Arvid Wallgrens Backe 20, 41346, Göteborg, Sweden	2,222千SEK	(100.0%)	研究用試薬の開発・製造・販売
DSS Takara Bio India Private Limited(インド)	A-5 Mohan Co-op Industrial Estate, Mathura Road, New Delhi, 110044, India	110百万ルピー	(51.0%)	研究用試薬の製造・販売
宝生物工程(大連)有限公司(中国)	No.19 Dongbei 2nd Street, Development Zone, Dalian, China 116600	2,350百万円	(100.0%)	研究用試薬の開発・製造・販売・受託サービス
宝日医生物技術(北京)有限公司(中国)	Life Science Park, 22 KeXueYuan Road Changping District, Beijing, China 102206	1,030百万円	(100.0%)	研究用試薬・細胞培養用培地・バッグの販売
Takara Korea Biomedical Inc.(韓国)	Lotte New T Castle 601, 429-1, Gasan-dong, Gumchun-gu, Seoul, 153-803, Korea	3,860百万ウォン	(100.0%)	研究用試薬・理化学機器の販売

### 宝ホールディングス株式会社の連結子会社

宝ヘルスケア株式会社	〒604-8166 京都府京都市中京区三条通烏丸西入御倉町85-1 TEL 075-229-6901	90百万円	100.0%	健康食品の製品開発・販売
大平印刷株式会社	〒612-8338 京都府京都市伏見区舞台町1 TEL 075-605-3330	90百万円	100.0%	印刷業
川東商事株式会社	〒612-8338 京都府京都市伏見区舞台町9 TEL 075-601-5211	30百万円	100.0%	酒類販売、不動産賃貸

(注) 議決権の所有割合の括弧書きは間接所有割合

## 投資家情報

(2015年3月31日現在)

商号	宝ホールディングス株式会社	設立	1925年9月6日
事業内容	持株会社	資本金	13,226百万円
本店所在地	京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20番地	代表者	代表取締役社長 柿本 敏男
電話	075-241-5130	ホームページアドレス	www.takara.co.jp

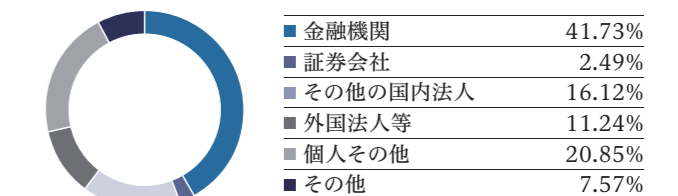
## 株主メモ

<b>発行株式</b>	
発行可能株式総数	870,000,000株
発行済株式総数	217,699,743株
<b>株主数</b>	25,246名
<b>上場取引所</b>	東証1部
<b>証券コード</b>	2531
<b>株主名簿管理人</b>	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
<b>株主名簿管理人 事務連絡先</b>	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話0120-288-324(フリーダイヤル)
<b>株主総会</b>	定時株主総会は、毎年6月に京都で開催されています。その他、必要のある場合には少なくとも2週間の事前通告をもって、臨時株主総会が開かれる場合があります。
<b>独立監査人</b>	有限責任監査法人トーマツ

氏名又は名称	大株主(上位10名)	
	所有株式数 (千株)	所有株式数の 割合(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	16,944	7.78
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	9,840	4.52
株式会社みずほ銀行	9,738	4.47
農林中央金庫	9,500	4.36
明治安田生命保険相互会社	5,370	2.47
株式会社京都銀行	5,000	2.30
国分株式会社	3,489	1.60
宝グループ社員持株会	3,178	1.46
日本アルコール販売株式会社	3,000	1.38
三井住友信託銀行株式会社	2,753	1.26

(注) 1. 所有株式数の千株未満は切り捨てております。  
2. 上記のほか、当社は自己株式を16,474,061株(所有株式の割合は7.57%)保有しています。  
3. 三井住友信託銀行株式会社の所有株式数には、信託業務に係る株式数は含んでいません。

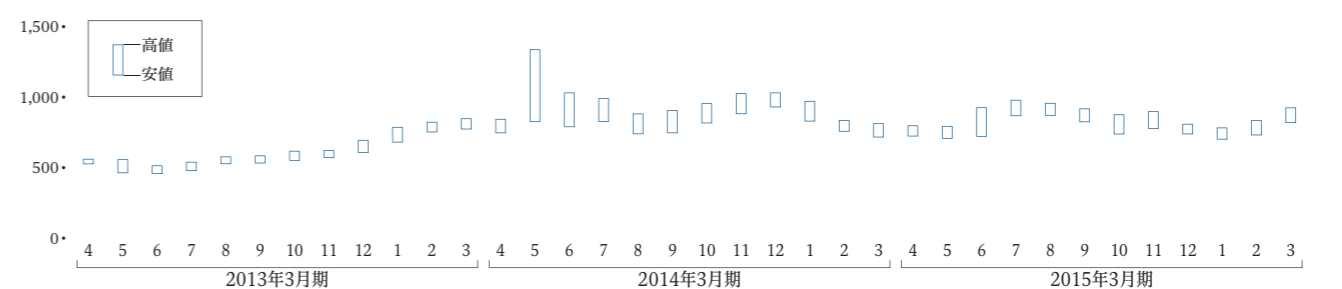
### 所有者別株式分布状況



### 格付

格付機関	長期格付	短期格付
格付投資情報センター(R&I)	A / 安定的	a-1
日本格付研究所(JCR)	A / 安定的	J-1

## 株価の推移 (円)



## 宝ホールディングス株式会社

京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20番地

Phone: 075-241-5130

[www.takara.co.jp](http://www.takara.co.jp)



この印刷物は環境に配慮し、植物油インキ・水なしオフセット印刷で制作しています。  
この用紙費用の一部は『日本赤十字社』に寄付されています。